

## 表 紙

### タイトル

0-3 歳児の情緒および行動適応を改善するための子育て訓練グループ・プログラム

### レビューワ

Barlow J, Parsons

### 日 付

編集日 : 2003 年 8 月 29 日  
大幅な更新を行った最終日 : 2002 年 11 月 22 日  
若干の更新を行った最終日 : 2003 年 8 月 29 日  
次回予定日 :  
プロトコール初回公表 : 2001 年 4 号  
レビュー初回公表 : 2002 年 2 号

### レビューワの連絡先 :

Dr Jane Barlow  
Primary Care Career Scientist  
Health Services Research Unit  
University of Oxford  
Institute of Health Sciences  
Old Road  
Headington Oxford UK  
OX3 7LF  
Telephone 1: +44 01865 226 932  
Facsimile: +44 01865 226711  
E-mail: [jane.barlow@dphpc.ox.ac.uk](mailto:jane.barlow@dphpc.ox.ac.uk)  
URL: <http://hsru.dphpc.ox.ac.uk/>

### 学内の支援部署

Health Services Research Unit, University of Oxford, UK

### 学外の支援機関

PPP Healthcare Trust, UK

### レビューワによる貢献

Jacci Parsons (JP) および Jane Barlow (JB) がプロトコールのテキストを作成。JP が検索を実施。JP および JB がレビューのテキストを作成。JB が編集者および外部のレフェリーによるコメントに回答。

**謝 辞**

本レビューは、PPP Healthcare Trust による資金援助と University of Oxford の Health Services Research Unit による支援を受けた。

**利害が衝突する可能性**  
なし。

### この更新版に見られる新たな点

本レビューの前回版に見られた若干の誤りは、2003年3号の中で修正された。これは、メタ・アナリシスのSMD統計に代替するWMDのセッティングの誤りと、テキスト中のメタ・ビューの結果の誤りを修正するものであった。

さらに2003年4号では、親によるレポートのメタ・アナリシスの結果について、前回版で公表された、統計的に有意でない介入による改善-0.29 [-3.31, -1.10]から、統計的に有意でない介入による改善-0.29 [-0.55, -0.02]に訂正された。

### 日 付

プロトコール初回公表 :	2001年4号
レビュー初回公表 :	2002年2号
大幅な更新を行った最終日 :	2002年11月22日
若干の更新を行った最終日 :	2003年8月29日
レビューを再フォーマット化した日 :	
新たな研究を検索したが発見のなかった日 :	
新たな研究を発見したが追加・除外を行わなかった日 :	
新たな研究を発見し追加・除外を行った日 :	
レビューワによる結論の改定日 :	
コメント・批評追加日 :	
追加されたコメント・批評への回答日 :	

## 抜 粋

児童の情緒および行動問題の展開において、親による子育ては重要な役割を果たすため、乳幼児の親を対象にした子育て訓練プログラムには、そのような問題の発生を防ぐ可能性がある。本レビューの結果は、3歳以下の児童の情緒・行動適応を改善するために、グループを基盤とした子育て訓練プログラムを活用することに一定の支持を示すものである。しかしながら、こうした結果はどの程度長く維持されるのかについてのエビデンスは限られ、確かではない。幼児の発達において著しい変化が見られる時期に、その後のさらなるインプットが必要とされる。こうした質問に答えるためには、さらなる研究が必要である。

## 抜 粹

### 背 景

児童の情緒・行動問題は頻繁に見られる問題である。研究によると、児童の適応を助けるうえで、親による子育てには重要な役割があり、生後数ヵ月から数年は、児童の将来の発達、特にメンタルヘルスに影響を及ぼす、情緒、認知、社会的機能パターンを確立するうえで特に重要な時期といえる。従って、子育て訓練プログラムは、乳幼児の情緒・行動適応を改善するうえで重要な役割を果たす。

### 目 標

本レビューの目標は：

- a) 3歳以下の児童の情緒・行動適応を改善するために、グループを基盤とした子育て教育プログラムが有効であるかどうかを探ること。
- b) 情緒・行動問題の一次予防における子育て訓練プログラムの役割を査定すること。

### 検索戦略

MEDLINE、EMBASE、CINAHL、PsychLIT、Sociofile、Social Science Citation Index、ASSIA、SPECTR を含む Cochrane Library、CENTRAL、National Research Register (NRR)、ERIC など、一連の生物医学および社会科学のデータベースを検索した。

### 選択の基準

子育て訓練グループ・プログラムの無作為化比較試験、情緒・行動適応を測定する標準測度を少なくとも1つ用いた研究のみが含まれた。

### データの収集と分析

各研究のそれぞれのアウトカムにおける処遇効果は、介入・処遇群の介入後スコアの平均差を標準偏差で割り、効果の大きさを得るために標準化した。各研究のそれぞれのアウトカムの結果は95%の信頼区間で示した。適切である場合は、結果を、変量効果模型を用いてメタ・アナリシスに組み入れた。

### 主な結果

レビューには5本の研究を含めた。これら5本の研究には、結果をメタ・アナリシスにまとめるのに十分なデータが含まれていた。親によるレポートおよび児童の行動に対する独立アセスメントの双方にメタ・アナリシスを実施した。親によるレポートは、介入群を支持する、統計的に有意でない結果(ES -0.5, CI -1.06 ~ 0.08)を示している。入手できた追跡データは限られていたが、このメタ・アナリシスでは、介入群を支持する、有意でない小さな結果(ES -0.24, CI -0.56 - 0.09)が示されている。

### レビューによる結論

本レビューでの発見は、3歳以下の児童の情緒・行動適応を改善するために、子育て訓練グループ・プログラムを活用することに一定の支持を与えている。しかしながら、そうした問題の一次予防にこのようなプログラムが果たす役割について、確実な結論を導き出すエビデンスは十分でない。さらに、このようなプログラムの長期的な効果に関するデータは限られており、こうしたデータが含まれている2本の研究でも、統計的に有意でない、不確実な結果を表している。今後、さらなる研究が必要である。

## 背景

### 児童のメンタルヘルス問題に関する疫学

情緒・行動問題は、児童の機能障害の最も重要な原因の一つである(Bone 1989)。臨床的な基準を用いると、都市部でのこうした問題の発生率は20%に上ると推定され(Campbell 1995)、問題に対処するために現在利用できる手段と資源の範囲を超えている(DoH 1995)。就学前児童の行動問題の割合は特に高い。ある調査によると、3 - 4 歳児の7%に深刻な行動問題が見られ(Charlton 1995)、その他の研究では、就学したばかりの児童の15 - 21%が情緒・行動問題を抱えていることが示されている(St James-Roberts)。

発生率の高さに加え、児童の情緒・行動問題は、将来のうつ病、アルコールまたは薬物乱用のほか、就労意欲の低下、結婚生活における問題、非行、犯罪行動などの心理・社会問題を含む、一連の粗悪な結果が多く生じる危険性を予測する(Champion 1995; Farrington 1994; Farrington 1991; Kazdin 1990; Loeber 1997; Moffit 1996; Offord 1994; Robins 1991; Robins 1990; Rutter 1996)。たとえば、Dunedinの研究によると、13歳児の反社会的な行動は、3歳の時の感情を外在化する行動や5歳の時の問題行動によって予測された(Robins 1991)。22年間の追跡調査によると、8歳の時に友人によって知覚された攻撃行動は、30歳までに犯した犯罪の数とその深刻さを予測した(Eron 1990)。

### 親による子育てと児童のメンタルヘルス

様々な文献のなかで、児童のメンタルヘルスにおける子育ての重要性が指摘されている。肯定的で積極的な子育て(ほめる、励ます、愛するなど)は、児童の自信や社会や学業における能力に関係し、将来の破壊的な行動や薬物の不正な使用の予防につながる(Cohen 1994; Baumrind 1985)。一方、一貫性に欠けた厳しいしつけ、子供への肯定的な働きかけの欠如、監視と監督の不十分さに特徴付けられた子育ての慣習は、非行や薬物乱用などの一連の否定的な結果が多く生み出される危険性に関係している(Patterson 1993; Patterson 1993; Patterson 1993)。子育てと家族相互作用に関する変数は、児童の反社会的な行動の30-40%を説明することが示されている(Patterson 1989)。

乳幼児が早期に(行動)問題を起こすまでの過程に焦点を当てた近年の研究では、乳児期の育児環境が、就学時の問題の外在化において重要な意味をもつと指摘されている(Shaw 2001)。こうした結果は、幼児期の深刻な行動問題は、育児環境の欠点に起因すると考える社会学習理論およびアタッチメント理論と一致している(Shaw 2001)。

生後の数カ月・数年が、子供の将来の発達とメンタルヘルスに影響する、情緒、認知、社会機能のパターンを形成するうえで重要である。特に、乳児期の親子関係の質が、幼児期と成人期に健全な機能パターンを確立する条件を左右することが、多くの文献で示唆されている。たとえば、早期に親への安定的な愛着を確立することは、後に安定した愛着関係を築く基礎となる一方(Stein 1991; Murray 1990)、2歳前の安定的な愛着関係の欠如は、就学前の一連の劣悪な結果、たとえば行動問題、社会性の未発達、不安定な友人関係、怒りの兆候、自制心の欠如などに関係し (Carlson 1995; Astington 1994)、さらには青年期の不安(Warren 1997)、人間関係における問題(Ogawa 1997)、薬物の使用、非行(Garnier 1998)に関係することが証明されている。また、他人の思考や感情を理解し共感する能力も乳児期の親子関係の質に影響され、こうした分野の機能欠如は、暴力や犯罪の増加に関係する(Velez 1989)。加えて、乳児期の不十分な母子関係と、情緒・認知の未発達(Cogill 1986)、低学力(Campbell 1995)、犯罪(Egeland 1993)、あらゆるメンタルヘルス問題には、関連性があることも明らかである(Fonagy 1997)。

乳児期のメンタルヘルスの発達は、精神面の問題を生涯通して予防するためのカギであることが指摘されている (Fonagy 1998)。これは、特に親と乳児の相互作用を改善するための早期介入の役割と、より一般的に、子育ての重要性を示唆している。

### 子育て訓練プログラム

子育て訓練プログラムは、短期介入に焦点を当て、子供との関係改善を目指して両親を支援し、行動・情緒適応を含んだ一連の問題を予防し施療することを目的とする。児童の行動の修正に親を参加させる試みは1960年代に始まり、行動修正療法を活用した親の介入によって、子供のかんしゃく、自己破壊的な行動、言葉の暴力、泣き叫び、指しゃぶり、墮落、学校恐怖症、言語障害、発作、反抗的な行動、反社会的・未熟な行動が、有効に改善されることが示されている(Johnson 1973; Rose 1974)。早期のこうした試みは個々の家族を基本とするもので、グループの活用は1970年代になるまで見られなかった。グループを基盤とした子育て訓練プログラムは過去10年間に多くの国で広がった(Pugh 1994)。子育てプログラムは現在、様々な状況のなかで運営されているが、最近行われた無作為化比較試験の系統的レビューでは、3 - 10歳児の行動問題の改善(Barlow 2001)や、母親の心理社会的な健康状態の短期的な改善、すなわち不安やうつ病の緩和、自信の回復などにおいて、プログラムが有効であることが示された(Barlow 2000)。また、グループを基盤とした子育て訓練プログラムは、睡眠障害をもつ子供を抱える親を支援するうえで、個人を対象とした行動プログラムよりも有効な方法であることが指摘されている(Szyndler 1992)。こうしたことから、0 - 3歳児を対象とした子育て

訓練プログラムの有効性についての研究を、系統的にレビューすることが必要である。

比較試験による現在のエビデンスでは、子育て訓練プログラムの活用は、予防に対する二次的なハイ・リスク・アプローチの一環として捉えているが、理論的には、より広範なアプローチの一環として活用されれば、さらに有効性を発揮するであろうと議論されている(Stewart-Brown 1998)。また一般的に、子育て訓練プログラムは、二次的予防措置、すなわち早期のメンタルヘルス問題の治療に活用されているが、メンタルヘルス問題の一次予防、まさにメンタルヘルスの発達に重要な役割を果たすと考えられる。本レビューは、こうした課題に取り組むことを目的としている。

## 目的

本レビューの目的は次のとおり：

- a) グループを基盤とした子育て訓練プログラムは、3歳以下の児童の情緒・行動適応の改善に有効であるかどうかを確認すること。
- b) 子育て訓練プログラムは、情緒・行動問題の一次予防に有効であるかどうかを査定すること。

## 本レビューの対象となる研究の基準

### 研究の種類

参加者が無作為に実験郡と統制郡に割り当てられる無作為化比較試験。統制郡とは、待機リストに載せられている郡、あるいは非処遇郡を意味する。治療面で異なる2つの郡を比較する研究。統制郡の無いものは本レビューから除外した。

### 参加者のタイプ

児童が臨床または母集団のどちらの標本に含まれているかに関わらず、0 - 3歳児の親を含んだ研究を本レビューの対象とした。3歳より年長の児童の親が含まれている研究では、研究対象となった全児童の平均年齢が3歳前後であるという条件が満たされている場合は本レビューに含めた。児童の平均年齢が3歳3ヵ月である2件の研究を含めたことに留意されたい。

### 介入のタイプ

プログラムの理論ベースと無関係に、グループを基盤とした子育て訓練プログラムの効果を評価する研究を本レビューの対象とした。

### アウトカム測定のタイプ

乳幼児(0 - 3歳)の情緒・行動適応に関して少なくとも1件の測度を含む研究を、本レビューの対象とした。

## 研究を特定するための検索戦略

以下の電子データベースを検索した。

### 1. 生物医学データベース

- MEDLINE ジャーナル記事 (1970 2001 年)
- EMBASE (1974 2001)
- Biological Abstracts (1985 2001 年)
- British Nursing Index (1994 2001 年)

### 2. 社会科学および一般文献データベース

- CINAHL (1982 2001)
- PsychINFOR ジャーナル記事および本/各章 (1970 2001 年)
- Sociological Abstracts (1963 2001 年)
- Social Science Citation Index (1994 2001 年)
- ASSIA

### 3. その他の情報源

Cochrane Library Cochrane Database of Systematic Review; Cochrane Controlled Trials Register and Database of Abstracts of Reviews of Effectiveness (2001 年 3 号)を含む。

National Research Register (NRR) (2001 年 4 号)

-Dissertation Abstracts (International A) (1980 2001 年)

- ERIC

-適切な研究をさらに特定するため、データベース検索によって発見された記事の参考文献を検閲した。

-適切な研究をさらに特定するため、系統的小説および非系統的レビューの記事の参考文献を検閲した。

Dissertation Abstracts のなかで特定した適切と思われる論文は、英国で入手可能なもののみ回収した。これは、海外の論文を入手するのに必要な費用が高額であったためである。

検索用語はデータベースによって調整した。すべての適切な論文を確実に回収するために、方法論的な用語は含めなかった。検索では、以下の用語を用いた。

- 1 . (parent\* training or parent\* program\* or parent\* education
- 2 . (toddler or infant or preschool or pre-school or pre school or baby or babies)
- 3 . #1 および #2

## レビューの方法

電子データベースの検索によって特定した研究の題名と抜粋をレビューし、本レビューに含めるための基準を満たしているかどうかを判断した。Jacqueline Parsons が題名と抜粋を特定し、Jacqueline Parsons および Jane Barlow がそれらを読んでレビューを行った。2名のレビューワ (JP および JB) が、基準を満たしていると考える論文の全文をそれぞれが独自に査定した。本レビューに含めた研究は、割り付けの隠蔽の手法を含み、数多くの基準に照合して厳密に評価した。

## 質の査定

以下の基準に沿って、2名のレビューワが本レビューに含めた研究の厳密な評価を行った。'A' は、割り付けの隠蔽の適切な手法 (たとえば、無作為化による電話、あるいは連続番号をふった、不透明な封書の使用) が使われたことを示す。'B' は、割り付けが適切に隠蔽されたかどうかの不確定であることを示す (たとえば、隠蔽の手法が明らかでない)。'C' は、割り付けの方法が適切に隠蔽されていなかったことを示す (たとえば無作為化番号の公表リスト、または交互の日付、奇数/偶数の誕生日、病院の番号を用いるなどの準無作為化)。さらに各研究について以下の要素が評価された: 各グループの参加者数、参加者の減少/脱落への対応方法、盲検化、交絡因子の分布が査定されたかどうか。

## データ管理

データは、2名のレビューワがデータ抽出フォームを使ってそれぞれ抽出し、REVMAN に入力した。公表されている実験レポートの中でデータが入手できなかった場合は、欠落している情報を得るために著者に連絡をとった。1名の著者がデータを提供した (Sutton 1992)。

## データの分析

本レビューに含めた研究では、同じようなアウトカムを測定するために様々な尺度が使用された。たとえば児童の行動適応は、Eyberg Child Behaviour Inventory (ECBI)、Child Behaviour Questionnaire (CBQ)、Behaviour Screening Questionnaire (BSQ)、Pediatric Symptom Checklist (PSC)、Home Situations Questionnaire (HSQ) によって測定された。従って各研究のそれぞれのアウトカムにおける処遇効果は、介入・処遇群の介入後スコアの平均差を標準偏差で割って標準化し、効果の大きさを求めた。適切であると判断した場合、結果を、変量効果模型を使って、メタ・アナリシスに組み込んだ。このような方法でデータを統合すべきかどうかは、一次研究の母集団の多様性の度合い、介入、およびアウトカムに基づき決定した。メタ・アナリシスへの統合の正当性を証明するうえでアウトカムの数が不十分な場合は、個々の研究のそれぞれのアウトカムについて効果の大きさと 95% の信頼区間を提示した。

## 研究についての記述

検索を行ったすべてのデータベースでは抜粋が公表されていたが、データベース間で多くの抜粋が重複した。190件の抜粋を特定しレビューを行った。

レビューを行った190件の抜粋のうち、50件には本レビューとの直接の関連性がなかった。レビューを行った140件の研究のうち、5件のみが本レビューに含めるのに値した。除外の主な理由は、研究が子育て訓練プログラムを評価するものでなかったこと、介入のタイプがグループを基盤としていなかったこと、研究の対象となっていた児童が年齢の基準を満たしていなかったことにあった。また、児童のメンタルヘルスを測定するアウトカムを含んでいなかったため、除外した研究もあった。検索によって特定された研究のうち1件はレビューに適していたが(Esdaile 1995)、論文のなかで必要なデータが公表されておらず、著者からもデータを入手することができなかった。そのほか、RCTではない研究を行った著者と連絡したことで、1件の新たな研究を発見することができた。この研究は現在印刷中であるが本レビューに組み入れ、結果として合計5件の研究をレビューに含めることになった。

レビューを行った大半の記事は英文で書かれていた。英語以外の言語で書かれた記事についてはすべて英文の抜粋が添付されていたが、これらの研究はすべて、抜粋に含まれている情報に基づき除外した。

本レビューに含んだ研究はすべて、幼児の情緒・行動適応の改善に焦点を当てるものであった(Gross et al in press; Gross et al 1995; Nicholson et al 1998; Nicholson in press; Sutton 1992)。本レビューに含めた2件の研究は、Webster-Strattonプログラムを評価するものであった(Gross et al in press; Gross et al 1995)。これらの研究の1つはクラスター無作為化試験で、低所得都市のデイケアに通う幼児をもつ多民族の家族を対象としたWebster-Stratton 'Incredible Years' と称する子育て訓練プログラムの効果を評価する研究であった(Gross et al in press)。この研究では、子育て訓練プログラムを、教員研修プログラム、子育て訓練と教育研修を統合したプログラム、および待機リストの統制郡と比較し、児童の行動に対する親の査定報告に加え、教室内的の児童の行動に対する測定も含まれていた。2番目の研究は、親子関係の改善、子育てによるストレス・うつへの緩和、児童の行動問題の軽減において、Webster-Strattonのグループベースの子育て訓練ビデオモデル・プログラム(親子シリーズ)の効果を評価するものであった(Gross et al 1995)。研究では、親としての自信、親のうつ状態、親子相互作用の観察に加え、児童の行動が測定された。第3の研究では、年齢の低い子供をもつ家族において今後行動問題が発生しないよう、予防を目的として開発された認知・行動子育て訓練プログラムの効果が評価され、親子の行動が測定された(Nicholson et al 1998)。第4の研究は、子育て行動訓練の異なる手法を比較するもので(Sutton 1992)、子供の行動に加え、子育てに起因する親のストレスを測定した。5番目の研究は、厳し

い子育てを行う傾向のある親を対象とした、小規模グループの認知・行動子育て訓練プログラムの評価を行った (Nicholson in press)。この研究では、児童に関する一連のアウトカムに加え、子育てストレスおよび子育て行動を測定した。児童の教員からのデータも集められている。

### レビューに含んだ研究手法の質

本レビューに含めたすべての研究では、参加者のグループへの割り付けにおいて、無作為化または準無作為化の手法が使われていた。1件の研究では、クラスター無作為化デザインが採用され (Gross et al in press)、11件のデイケアセンターが3組の1つに無作為に割り付けられた (Gross et al in press)。2つの試験では、準無作為化をベースに参加者をグループに割り付け研究を行った。Nicholson et al による 1998 年の研究では、参加者は2晩のうち都合の良い日を選択し、子育て訓練セッションに参加した。参加日を特定しなかった参加者については、「無作為」に研究グループに割り付けた。そして2晩のセッションのうち1つが介入郡、残るセッションが待機リストの統制郡に割り当てられた。しかしながらこの研究では、介入郡に割り当てたセッション日を決定したのは、親が参加日を選択する以前か以後かは明確にされていない。Sutton の 1992 年の研究では、すべての参加者を、実験参加申し込みを受理した順番に、4つの試験グループの1つに連続的に割り付けた。3名の申請者については、規定のクラスに参加するかどうかを予想することが困難だったため、この順番に従うことなく割り付けた。Gross et al による 1995 年の研究と Nicholson による研究 (in press) では、無作為化の手順についての情報はなかった。

### 割り付けの隠蔽

本レビューに含んだ研究のうち、研究グループへの割り付けの隠蔽の手法について記述したものはなかった。

### ITT に基づく解析

Nicholson et al による 1998 年の研究では、脱落した参加家族はなく、すべての参加者は割り付けられたグループに残ったと思われる。Gross et al による 1995 年の研究では、親の 29% が脱落したが、ITT (Intention-To-Treat) に基づく解析は行われなかった。すなわち、脱落した7家族は第2統制郡として残った。Gross et al の研究 (in press) でも、子育て訓練からの脱落率は 30% の域にあったが、ITT に基づく解析は行われなかった。Sutton の 1992 年の研究では、脱落したのは2家族のみであったが、これら家族のデータが分析に含まれたかどうかは明確にされていない。Nicholson による研究 (in press) では 10% の脱落率が報告されているが、脱落した親が分析に含まれたかどうか、またどのグループから脱落したのかは明記されていない。

### 処遇の盲検化

子育て訓練プログラムの試験では、ファシリテーターまたは親に、実施している、あるいは受けている処遇について隠蔽することは不可能である。参加する親や研

究実施者に処遇を隠すことができないことから発生するバイアスを最小限にとどめるための方法の1つとして、臨床アウトカムの評価項目を隠蔽するという方法がある。本レビューに含まれた研究のうち1件は、児童の行動について独立評価を行い、2件の研究では、研究対象グループは評価項目について知らされなかった (Gross et al in press)。

### 交絡因子の分布

理論上では、無作為化を行うことで、交絡因子は試験グループ間で同様に分布することになるが、親の人数が少数である場合、無作為化しても交絡因子の分布が同様にならない場合がある。従って、知りうる潜在的な交絡因子の分布を i) 最初の段階で異なる研究グループ間で比較するか、ii) 分析の段階で調整することが重要となる。Sutton の 1992 年の研究では、介入前の主な査定では違いは見られなかったが、その他の交絡因子、参加者である親とその子供の年齢あるいは社会経済的地位などに関する情報は提供されていなかった。Nicholson et al による 1998 年の研究では、児童の行動に関する介入前のデータは提供されていなかったが、児童の年齢、親の人数については、介入郡と統制郡間で類似していたことが示されていた。デイケアセンターを割り付けの単位とした研究では、デイケアの規模、民族構成、一人親世帯の割合、平均収入、デイケアセンターの質など、多くの変数について、それぞれのデイケアセンターは類似していた (Gross et al in press)。2 件の研究では、統制要因についての記述はなかった (Nicholson in press; Gross et al 1995)。

## 結果

本セクションは以下で構成される：

- セクション A：情緒・行動アウトカムについての個々の研究結果
- セクション B：情緒・行動アウトカムについてのメタ・アナリシス
- セクション C：追跡データ
- セクション D：追跡データのメタ・アナリシス

(注：効果の大きさが 0.2 より小さい場合は、効果のエビデンスなしとする)

### セクション A: 情緒・行動アウトカムについての個々の研究結果

本レビューに含めた 5 件の研究は、0 - 3 歳児の情緒・行動適応の改善における子育て訓練プログラムの効果を査定するものであった (Gross et al in press; Gross et al 1995; Nicholson et al 1998; Nicholson in press; Sutton 1992)。これらすべての研究では、子育て訓練プログラムと待機リストにある統制郡が比較された。

Gross et al による研究 (in press) では、12 週にわたるビデオテープ・モデルプログラム (Incredible Years) が、親の能力向上と児童の行動問題の緩和にどのような

効果があったかを、親のアウトカム・レポート尺度 - Eyberg Child Behaviour Inventory (ECBI)と、教室での行動に関する教員レポート - Kohns Problem Checklist (KPC)を使って評価された。観察者による児童行動問題の評価では、Dyadic Parent-Child Interactive Coding System-Revised が使われ、親子間の自由遊戯セッションを収録した 15 分間のビデオ・テープが査定された。児童の行動問題は、DPICS-R の 8 つの項目に基づき、肯定的な児童行動に対する否定的な児童行動の割合によって査定された。

この調査結果によると、ECBI を使って査定した親のレポートによる児童行動のアウトカムについて、効果のエビデンスは見られなかった - 全行動-0.01 [-0.35, 0.33] ; ECBI - 強度-0.10 [-0.44, 0.25] ; ECBI - 行為-0.10 [-0.44, 0.24]。さらに、ECBI - 反抗的な行動 0.21 [-0.14, 0.55]では統制郡を支持する統計的に有意でない差異と、ECBI - 注意力の欠如 -0.22 [-0.57, 0.12]では介入郡を支持する有意でない差異が示された。教室内での行動についての教員レポートの結果-0.46 [-0.80, -0.11]では、DPICS-R を使って児童の行動の独立観察-0.51 [-0.86, -0.17]を行ったときと同様、介入郡を支持する統計的に有意な差が示されている。

Gross et al による 1995 年の研究では、2 つの親レポート・アウトカム尺度 - Eyberg Child Behaviour Inventory (ECBI) と Toddler Temperament Scale を使って、10 週間のビデオテープ・モデルプログラム (親子シリーズ) は、良好な親子 (2-3 歳児) 関係の促進に効果があったかどうかを測定した。Dyadic Parent-Child Interactive Coding System (DPICS)を用いて、児童の行動に対する独立観察が行われた。この尺度では、7 つの局面に沿って点数を付ける - 特定化してほめる (児童の特定の行動についてほめる) ; 特定化せずにほめる (子供に対し肯定的な、一般的な言葉を述べる) ; 児童への批判的な言葉 ; 身体への否定的な行動 (親が子供に対して痛みを与える接触をする、児童を抑制する、子供を押し付けるまたは引っ張る、批判を述べる) ; 肯定的な感情 (笑顔を見せたり笑いかけるなど、子供に対して肯定的な非言語的行動をとる) ; 子供への命令。この尺度の各項目間の信頼性は、母子相互作用で 74%、父子相互作用で 73.5%であった。これらの尺度で測定したデータは、母親と父親の双方から集められ、個別に報告された。

この研究の結果では、ECBI を使った母親のレポートによる問題の数については、効果のエビデンス-0.02 [-0.98, 1.01]は見られなかったが、ECBI を使った母親のレポートによる幼児の問題行動の強度について、統制郡を支持する統計的に有意でない差が示された 0.4 [-0.6, 1.41]。父親のレポートによる問題の数 (ECBI を用いる) -0.6 [-1.6, 0.4] および父親のレポートによる問題の強度 (ECBI を用いる) -0.9 [-1.9, 0.2]に関して、介入郡を支持する有意でない差が見られた。Toddler Temperament Scale は、様々な状況の児童の行動を、親のレポートによって測る尺度で、幼児の気質の問題性を低いレベルから高いレベルまで 9 つ段階に集約する。この研究では、3.4 以上の平均スコアは、気質の平均な問題性を超えるもの

とみなしていた。結果として、母親によるレポート-0.8 [-1.9, 0.22]と父親によるレポート-0.6 [-1.6, 0.4]について、介入郡を支持する有意でない差が示された。

児童の行動に対する独立観察の結果において、介入郡を支持する統計的に有意でない差が示されたのは、特定化してほめる - 母子相互作用-0.68 [-1.71, 0.34] )、特定化してほめる - 父子相互作用-0.92 [-1.98, 0.13] )、特定化せずにほめる - 母子相互作用-0.7 [-1.7, 0.3] )、批判的な言葉の数 - 母子相互作用-0.5 [-1.6, 0.5] )、批判的な言葉の数 - 父子相互作用-0.5 [-1.5, 0.5] )、命令の数 - 母子相互作用-0.95 [-2.0, 0.1]、命令の数 - 父子相互作用-0.6 [-1.6, 0.4]であった。さらに、介入郡を支持した有意でない差を示したのは、身体への否定的な行動 - 母子相互作用-0.3 [-1.1, 0.5]、身体への否定的な行動 - 父子相互作用-0.6 [-1.67, 0.4] )、児童の否定的な行動 - 母子相互作用-0.6 [-1.6, 0.5] )、特定化せずにほめる - 父子相互作用-0.2 [-2.4, 1.2]であった。また、統制郡を支持する有意でない差が見られたのは、肯定的な感情 - 母子相互作用 0.7 [-0.4, 1.7] )、肯定的な感情 - 父子相互作用 0.9 [-0.2, 2.0] )、特定化せずにほめる - 父子相互作用 0.2 [-2.4, 1.2] )、特定化せずにほめる - 父子相互作用-0.2 [-2.4, 1.2]であった。

Sutton の 1992 年の研究では、2種の親によるレポート・アウトカム - Child Behaviour Questionnaire (CBQ) と Home Situations Questionnaire (HSQ)を使って、就学前児童 (平均年齢 2 歳 10 ヶ月) の行動改善における 8 週間のグループベース子育て訓練行動プログラムの効果が評価された。その結果では、幼児の行動 (児童の行動研究票によって測定) について、介入郡を支持する有意差-1.5 [-2.6, -0.46] ) が示された。さらに、様々な家庭の状況にある幼児の行動に関し、介入郡を支持する有意差-1.34 [-2.37, -0.31]が示されている。

さらに 2 本の研究 - Nicholson の研究 (in press) および Nicholson らによる 1998 年の研究 - では、子育て訓練認知・行動プログラムの効果が評価された。これら 2 本のうち最新の研究では、親による一連のレポート・アウトカムを用いて、1 - 5 歳児をもつ低所得でリスクの高い親を対象にした、情緒・行動問題を予防するための 10 週間のグループベース子育てプログラムの効果を評価した。情緒・行動適応は Behaviour Screening Questionnaire (BSQ)、Eyberg Child Behaviour Inventory (ECBI)、Pediatric Symptom Checklist (PSC)を用いて査定された。Pediatric Symptom Checklist は、児童の典型的な行動問題を測定するもので、親と教員の双方によるレポート形式が採用されている。研究結果として、BSQ で測定された情緒・行動適応-0.8 [-1.6, 0.03]、ECBI で測定された行動問題の数-0.45 [-1.23, 0.33]および児童の行動問題の強度-0.4 [-1.1, 0.4] )、Pediatric Symptom Checklist で測定された親のレポートによる行動問題の数-0.5 [-1.26, 0.3]では、介入郡を支持する有意でない差異が示された。さらに、教員のレポートによる Pediatric Symptom Checklist -0.6 [-1.4, 0.2]、教員のレポートによる Sutter-Eyberg Behaviour Inventory (問題) -0.31 [-1.09, 0.46] )、教員のレポートによる Sutter-

Eyberg Behaviour Inventory (強度)  $-0.77 [-1.57, 0.03]$  ) にも、介入郡を支持する非有意な差が見られた。

2 本目の Nicholson による研究では、幼児 (平均年齢 3 歳) をもつ親を対象とした、10 時間にわたる 4 セッションのグループベース子育て訓練認知・行動プログラムの効果が評価された。Behaviour Screening Questionnaire (BSQ) を用いて、情緒・行動適応が測定され、結果では、介入郡の幼児を支持する有意差が認められた  $-0.8 [-1.44, -0.1]$ 。

## セクション B: 情緒・行動アウトカムについてのメタ・アナリシス

次のアウトカム・データを用いて 2 本のメタ・アナリシスを行った: 1) 親のレポート; 2) 児童の行動の独立観察。

### 1. 親によるレポート

5 件の研究では (Gross et al in press ; Nicholson in press ; Nicholson et al 1998 ; Sutton 1992 ; Gross et al 1995)、乳幼児の情緒・行動アウトカムの改善における子育て訓練プログラムの効果を、Eyberg Child Behaviour Inventory (ECBI)、Behaviour Screening Questionnaire (BSQ)、Child Behaviour Questionnaire (CBQ)、Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) などの、親によるレポートを測る標準測度を用いて評価した。これら 5 件の研究では、児童の情緒および行動適応を測る合計 34 の尺度が使われたが、これらのうち 29 の尺度は同一の児童を繰り返し測る尺度であったため、5 つの尺度のみをメタ・アナリシスに含めた。4 つの尺度は次の基準に沿って選択した: 母親によるレポートは児童の行動を査定する上でより一般的に使われる方法であり、また、母親の方が父親に比べ子供と接する時間が長いことから、父親によるレポートより、母親によるレポートが支持された。一貫性を保つために、教員によるレポートよりも親によるレポートの方が好まれた。ECBI は児童の行動適応を測る上で、より一般的に使われていることから、Gross の研究では TTS よりも ECBI が支持された。

5 件の研究では、合計 236 人の参加者 (介入郡 127 人、統制郡 109 人) のデータが含まれた。データを統合すると、介入郡を支持する統計的に有意でない差が示された  $-0.29 [-0.55, -0.02]$ 。

### 2. 独立観察

3 件の研究が、児童の行動の標準独立観察を用いて、乳幼児の情緒・行動アウトカムの改善における子育て訓練プログラムの効果を測定した。(Gross et al 1995 年 ; Gross et al in press ; Nicholson in press)。これらの研究では、Pediatric Symptom Checklist teacher-report、Sutter-Eyberg Behaviour Inventory teacher-report、Kohn Pediatric Checklist (KPC) teacher-report、親子の相互作用に関する独立観察 - Dyadic Parent-Child Checklist などが使われた。3 件の研究には、合計 7 つのアウトカム・アセスメントが含まれていたが、そのうち 4 種が同一の児童に対して繰

り返し測定を行うものであったため、3種のみをメタ・アナリシスに含めた。これら3種の尺度は、以下の基準に沿って選択した：父子の観察ではなく母子の観察を行った。教員によるレポートではなく、親子相互作用の観察を活用した。教員によるレポートのみが用いられていた場合は、要約指標を選択した。すなわち Nicholson の研究 (in press) では3件の教員によるレポート Sutter-Eyberg Intensity、Sutter Eyberg Problems、Pediatric Symptom Checklist が使われていたが、後者をメタ・アナリシスに含めた。

3件の研究には、合計177人の参加者(介入群99人、統制群78人)に関するデータが含まれた。統合したデータでは、介入群を支持する有意差が示された-0.54 [-0.84, -0.23]。

### セクション C : 追跡の結果

5件のすべての研究は追跡データを含んでいた。しかしながら、介入群と統制群の両方のデータを提供していたのは2件の研究だけであった (Gross et al in press ; Gross et al 1995)。1件の研究では、追跡によって統制群は介入を受けたため、待機リストの統制群に関するデータの報告はなく (Sutton 1992年)、もう1件の研究では、待機リストの統制群が介入を受けた後、介入群と統制群のデータを統合していた (Nicholson in press)。残る1件の研究では、介入群、統制群についての追跡データは示されていない (Nicholson、1998年)。

Gross et al の研究 (in press) では、1年後の追跡において、ECBI-注意力の欠如-0.29 [-0.63, 0.05] ; 強度 -0.23 [-0.57, 0.11] では、介入群を支持する有意でない差が見られたが、反抗-0.16 [-0.51, 0.18] ; 行為-0.17 [-0.51, 0.17]、行動の総合-0.18 [-0.52, 0.17] では、効果のエビデンスは見られなかった。教室内の行動に関する教員によるレポートでは介入群を支持する有意差が示されたが-0.66 [-1.01, -0.32]、児童の行動の独立観察では効果のエビデンスは見られなかった-0.15 [-0.49, 0.10]。従って、教員によるレポートでは介入群について有意な変化が増したにもかかわらず、児童行動の独立観察では後退した。

Gross et al の 1995 年の研究では、3ヵ月後の追跡において、Toddler Temperament Scale 父親レポート-0.63 [-1.66, 0.39] および母親レポート-0.92 [-1.98, 0.13] では、介入群を支持する有意ではない差が示された。それ以外の結果ではすべて、統制群を支持する有意でない差が見られた Eyberg Child Behaviour Inventory Intensity-母親レポート 0.35 [-0.66, 1.35]、問題の数 母親レポート (0.34 [-0.67, 1.34]、強度 父親レポート 0.35 [-0.66, 1.35]、Eyberg Child Behaviour Inventory 問題の数 父親レポート 0.14 [-0.85, 1.14] では効果のエビデンス無し。

児童行動の独立観察では、特定化してほめる - 母子相互作用について、介入群を支持する有意でない差が示されたが (-0.8 [-1.9, 0.3])、特定化してほめる 父子相互作用については、介入群と統制群の間に差は認められなかった。特定化せず

にほめる 相互作用 (-0.4 [-1.4, 0.6]) および特定化せずにはめる 父子相互作用 (1.1 [-0.01, 2.1]) について、介入郡を支持する有意でない差が見られた。批判的な言葉 母子相互作用 (-1.7 [-2.9, -0.5]) では介入郡を支持する有意差、批判的な言葉 父子相互作用 (-0.9 [-1.98, 0.1]) では有意でない差が見られた。身体への否定的な行動 - 母子相互作用については介入郡を支持する有意差 (-1.35 [-2.47, -0.2]) が見られた一方、身体への否定的な行動 - 父子相互作用については、統制郡を支持する若干の有意でない差が見られた (0.3 [-0.8, 1.3])。命令の数 - 母子相互作用 (-0.7 [-1.8, 0.3])、命令の数 - 父子相互作用 (-0.9 [-1.9, 0.2])、児童の否定的な行動 - 母子相互作用 (-1.0 [-2.0, 0.1]) では、介入郡を支持する有意でない差異が示された。身体への否定的な行動 - 父子相互作用 (-0.02 [-1.0, 1.0]) については、2つの郡の間に差は認められなかった。肯定的な感情 - 母子相互作用 (0.6 [-0.5, 1.6]) および肯定的な感情 - 父子相互作用 (0.3 [-0.7, 1.3]) については、統制郡を支持する有意でない差が見られた。

介入郡のみに関する 12 - 18 ヶ月間の追跡データを示した Sutton (1992年) の研究では、情緒・行動適応における改善は一定期間にわたって維持されたものの、介入直後の結果では若干の後退が見られた。すなわち、Child Behaviour Questionnaire の平均点が 6.0 から 8.2 へと悪化し、Home Situation Questionnaire では、平均点が 25.3 から 24.4 へと落ち込んだ。

Nicholson (in press) の研究では、ECBIを用いて、介入郡と待機リストの統制郡を統合した 1 ヶ月の追跡データが示された。こうした結果は、追跡時点で介入後の改善がすべての測定において維持され、Pediatric Symptom Checklist (親によるレポート) と ECBI(教員によるレポート)(問題と強度)については、さらなる改善が追跡において確認された。一方、Pediatric Symptom Checklist (教員によるレポート) および Sutter Eyberg Behaviour Inventory (教員によるレポート)(問題と強度)では、介入後のスコアに若干の後退が認められた。

## セクション D: 追跡データのメタ・アナリシス

2 件の研究 (Gross et al in press; Gross et al 1995) では、介入郡と統制郡の双方について、Dyadic Parent-Child Interaction Scale (DPICS) を使って、1 年 3 ヶ月間の追跡データが示されていた。

これら 2 件の研究では、合計 151 人 (介入郡 86 人、統制郡 65 人) のデータが提供された。結果では、介入郡を支持する統計的に有意な差が見られた (0.24 [-0.56, 0.09])。

## 考 察

本レビューは2つの目的をもつ。第一は、乳幼児のメンタルヘルスを改善する上でグループベースの子育て訓練プログラムの効果を測ることである。本レビューに含めた研究の本数は少ないが、結果は、3歳以下の幼児の情緒・行動適応を改善するためにグループを基盤とした子育て訓練プログラムを用いることに一定の支持を与えるものであった。しかしながら、限られた追跡データでは、こうした効果が一定期間持続するかどうかに関して不確実なエビデンスしか示されない。

本レビューに含めた5本の研究のすべてには、効果の大きさを計算するのに十分なデータが含まれていた。多くの場合、かなり大きな効果が得られたにもかかわらず、95%の信頼区間はゼロを超えた。これは、5本のすべての研究において数が少なかったことから、大きな信頼区間を得たことを反映している。児童の情緒・行動適応の独立観察のメタ・アナリシスでは、介入群を支持する統計的に有意な結果を得たが、親によるレポートでは統計的に有意な結果は得られなかった。独立観察ではアウトカムに対してより客観的なアセスメントが得られる一方、親によるレポートでは通常、児童の行動の変化が過剰評価されるため、これは興味深い結果である。しかしながら、双方のメタ・アナリシスに含まれた数は少なく、さらなるデータが得られた場合、結果は異なると思われる。さらに、児童の情緒・行動適応の独立査定のメタ・アナリシスには、1本の教員によるレポートが含まれたが、第一次調査において教員たちが介入群に対して盲検化されていたかどうかは明らかにされていない(Nicholson, in press)。

こうしたプログラムの効果がどの程度長く持続するかについて、十分な追跡データはなく、また多くの場合、介入群のみのデータが入手可能であった。介入群と統制群の双方の追跡データを含んだ2本の研究では、介入群を支持する統計的に有意でない差異が示された。総合的にこれらの結果は、このような早期子育て訓練プログラムの長期的な効果に関して確実な結論を得るためには、さらなるデータが必要であることを指摘する。

本レビューに含めた研究の1つではクラスター無作為化比較試験デザインが用いられ、個人以外の単位、たとえばデイケアセンター(Gross et al in press)を用いた、無作為割り付けが行われた。しかしながら結果は、個人の無作為化に必要な参加者数に対する、クラスター無作為化に必要な参加者の総数の割合と定義される「デザイン効果」を説明するために調整された。

本レビューの2番目の目的は、レビューに含めた研究が、メンタルヘルス問題の一次予防における子育て訓練プログラムの有効性について、エビデンスを与えるものかどうかを査定することであった。一次予防は、問題の原因を除去すること、あるいは最初に問題が発生することを防ぐ個人の抵抗力を高めることを目的とする。二次予防には、問題の早期発見と治療が含まれる。本レビューに含んだ研究の多くが問題の進行を防ぐことを目的としたが、研究に参加した幼児がどの程度の問題をすでに経験していたかを査定して初めて、それが一次または二次予防であったかを知ることができる。このような個人データは、レビューに含めた研究

のどれからも得ることができなかったが、ほとんどの研究では、試験前の平均測定値によって、児童の多くが実際に何らかの問題をすでに経験していたことが示された。含まれたプログラムうち1件のみが情緒・行動問題の一次予防を目的としていた。このプログラムは、家族の既存の強さを強化することを目的とした予防教育哲学に基づくものであった(Nicholson et al 1998)。この研究の回答者は、学校と地域センターで配られたチラシによって募られた有志の親たちであった。幼児の標本の過半数については、介入前スコアの平均は 12.6 (この尺度を用いたケースとしての認定基準は 11) で、Behaviour Screening Questionnaire の臨床範囲外にあった。本研究の結果によると、幼児の情緒・行動適応の改善に加え、言語的および身体的に罰することが減少したことが介入郡の親たちによって報告され、しつけの習慣のこうした変化は 6 週間後の追跡でも持続した。しかしながら、情緒・行動問題の一次予防を目的とした、こうした短期的な子育て訓練プログラムの効果について、確実な結論に到達するためには、同研究のさらに長期的な追跡が必要であろう。

幼児の情緒・行動問題の一次予防を目的としないプログラムは、すなわちプログラムに参加している 2 歳児がすでにこうした問題を抱えている場合は、その他の問題、たとえば、児童の発達後期に発生する非行や孤立などの二次予防において重要な役割を果たすことは決してない。こうした問題の一次予防における早期子育て訓練プログラムの成果を評価するには、現在のところ十分な追跡が行われていない。たとえば青年期における効果が、子育て訓練プログラムのような早期の短期介入によるものかどうかを判断するのは困難であるが、保育期や就学時の早期子育て訓練プログラムに参加した親の子供を追跡調査することは重要である。

本レビューに含めた多くのプログラムは選択ベースで提供されていた (Nicholson in press ; Gross et al in press)。Nicholson の研究 (in press) に含まれたプログラムは、社会経済的地位が低く、言語的・身体的な罰を過剰に用いるエビデンスをもつ親たちを対象とした。複数のストレスを抱える、低所得のグループは、低いアウトカムを呈するリスクが高く、著者が指摘するように、小さなうちから子供に言語的・身体的に過剰な罰を与え続けることは、子供の行動問題の増加(Brenner 1999)、メンタルヘルスの問題 (Reid 1991)、行動不安 (Velez 1989) に密接に関係する。この研究では、プログラムに参加する親の子供のアウトカムの改善に加えて、親による言語的・身体的罰、怒り、ストレスの度合い自体が大幅に減少することが示された。こうした結果は 1 ヶ月後の追跡でも維持され、この重要な研究がさらに長期にわたって追跡されていくことが望まれる。Gross et al (in press) の研究は、米国の低所得都市部にあるデイケアセンターに預けられている幼児の多民族家族を対象とした、Incredible Years Programme の効果を評価した。親によるレポートでは介入直後の効果についてのエビデンスはほとんど示されなかったが、教員と独立観察者による介入後レポートでは重要な変化が報告され、教員が報告した変化は 1 年後の追跡でも確認された。

本レビューに含めたすべての研究には、結果の一般化に支障をきたす多くの方法論上の問題があった。1つの研究では有志のみを対象とし (Nicholson et al 1998)、Gross et al (1995) の研究では、参加者が照会によるものか有志によるものか不明瞭であった。すなわち、参加者はHMOまたは近隣のコミュニティから募られた。3つの研究では、研究への参加についての基準が設けられていた。Gross et al (1995) の研究では、母親と父親の双方の参加が要求され、また子供も行動問題に関する基準を満たしていなければならなかった。Nicholson の研究 (in press) では、参加者は低所得のグループに限られ、Parent Behavior Checklist の測定によると言語的・身体的罰を過度に与えているグループであった。残る2つの研究では資格要件は特になかった (Sutton 1992; Nicholson et al 1998)。Sutton (1992) の研究では、親の社会経済的地位の査定はされていなかった。

本レビューに含めた研究で評価された子育て訓練プログラムには、母親と父親の双方が参加していたため、レビューの結果は母親と父親の双方への一般化が可能である。レビューに含んだ研究の1件のみが親の民族に関する情報を含んでおり、ラテン系およびアフリカ系アメリカ人を含め、幅広い少数民族の親たちにとって、子育て訓練プログラムが有効であると報告した (Gross et al in press)。4つの研究が米国で行われ (Gross et al in press ; Nicholson in press ; Nicholson et al 1998 ; Gross et al 1995)、1つが英国で行われたものであった (Sutton 1992)。

2つの研究の脱落率は30%程度であった (Gross et al in press ; Gross et al 1995)。これらのうち1つの研究では、脱落した親は、脱落しなかった親に比べ、過剰反応なしつけのスコアが大幅に低かった。これは、脱落した親は強制的で厳しいしつけを行うことが少なかったことを意味している。こうした親たちはラテン系である確率が高かった (Gross et al in press)。2番目の研究では、介入を受け続けた親と比べると、脱落した親たちは全員、子供の行動問題を過小評価していた。Nicholson (in press) の研究では脱落率は10%であったが、脱落した親たちが分析に含まれたかどうか、またどの郡の親たちが脱落したのかは明らかにされていない。その他の研究では、子供たちの反社会的な行動のために子育て訓練プログラムに照会された家族の脱落は、より深刻な行動不安の兆候およびより非行的な行動；子供との関係、母親自身の役割、生活における様々な出来事に起因するストレスを訴える母親；社会経済的に不利な立場にある家族、と関係していることが指摘された (Kazdin 1990)。さらにその他の研究では、低い社会階層や少数民族のグループ (Farrington 1991 ; Holden 1990 ; Strain 1981)、より多くの問題を抱える子供など (Holden et. al. 1990)、脱落の可能性の高いグループが特定された。親が子育て訓練プログラムから脱落してしまう多くの段階がある。調査によると、最初のインテークからの脱落は親の絶望感、悲観的感情と関連する一方、プログラムからの脱落はセラピストの経験の浅さに関係する (Frankel 1992)。参加者の減少と脱落に関する問題は、こうしたことから発生するバイアスを制限する、ITT (intention-to-treat) に基づいて試験結果を評価することの重要性を示唆する。

## レビューワによる結論

### 実践に向けた提言

本レビューによる発見は、3歳以下の児童の情緒・行動適応を改善するためのグループベースの子育て訓練プログラムの活用に、一定の支持を与えるものである。こうした結果がどの程度長期的に維持されるかについてのエビデンスは限られ、不確かであるが、幼児の発達において急速な変化が見られる時期に、後の時点でのさらなるインプットが必要であろう。こうした質問に答えるには、より多くの研究が必要である。

本レビューに含まれた研究のすべては、行動、認知 行動、ビデオテープ・モデルの子育て訓練プログラムの研究であり、従ってここでの結果はその他のタイプの子育て訓練プログラムに一般化すべきでない。

現在のところ、メンタルヘルスの問題の一次予防に、子育て訓練プログラムがどのような役割を果たせるかについて、確実な結論を出すために十分なエビデンスはなく、この重要な課題についてさらなる研究が必要である。

### 調査研究に向けた提言

本レビューでの限りあるデータを基に、効果がどの程度長期的に持続するかについて、決定的なエビデンスを提供することは不可能である。また、メンタルヘルスの問題の一次予防において、子育て訓練プログラムが果たす役割を査定することもできない。母集団への一次予防のために、すなわち妊娠中および/または出産直後のすべての親に提供される子育て訓練プログラムについて、より一層の精緻な研究が必要である。研究の外部妥当性を高めるために、より多くの参加者を含める必要があり、メンタルヘルスの査定を含め、より幅広いアウトカムの測定を行わなければならない。こうした研究は、さらに長期にわたる追跡、すなわち幼児期、可能であれば青年期までの追跡調査の基盤を提供するものになると思われる。

乳児期の親子関係の質が、児童期と成人期のメンタルヘルスに重要であるという決定的なエビデンスが示されている。子育て訓練プログラムによって、乳幼児の情緒・行動適応を改善することは可能である。こうした問題の予防効果の評価研究も緊急課題である。本レビューによる予備的エビデンスは、メンタルヘルス問題の一次予防における子育て訓練プログラムの効果に関し、大規模な試験の必要性を指摘するものである。

追跡データが限られているという事実は、さらなる研究を実施し、こうしたプログラムの結果がどの程度長期にわたって持続するのか、また親たちは後の時点でさらなるインプットを必要とするのかを査定する必要性を指摘する。このようなプログラムの長期的な効果、すなわち就学時またはそれ以降の効果に関するエビデンスも必要である。

レビューに含めた研究の特徴

研究ID	方法	参加者	介入	アウトカム	注	割付の 隠蔽
Gross et al 1995	前後測定を伴ったRCT	24-36カ月間行動問題を抱えていたという基準を満たす子供の両親。23家族が医療センターHMOおよび周辺地域から照会された	10週間の子育てグループ訓練 (n=10) ;WL統制1 (n=6) 統制2 (割付の後に脱落、n=7)	Eyberg Child Behaviour Inventory; Toddler Temperament Scale	二次予防。無作為割付についての詳細はない	B
Gross et al in press	前後測定を伴ったクラスターRCT	低所得都市のデイケアセンターに幼児(2-3歳)を預けている多民族の親	子育てグループ訓練 (n=75) ; 教員研修 (n=52) ; 親・教員当統合グループ訓練 (n=78) ;統制郡 (n=59) ;	Eyberg Child Behaviour Inventory; Kohns Problem Checklist; Dyadic Parent-Child Interactive Coding Sytem - Revised	二次予防。無作為割付。その他の詳細はない	B
Nicholson et al 1998	前後測定を伴った準無作為比較試験	1-5歳児の片親、両親。有志母集団標本	10時間の子育てグループ訓練 (n=20) ;WL統制 (n=20)	Behaviour Screening Questionnaire	一次予防。介入日の選択による割付	D
Nicholson in press	前後測定を伴ったRCT	1-5歳児の母親、父親、祖母。自己か教員による照会	10時間の子育てグループ訓練 (n=13) ;WL統制 (n=13)	Behaviour Screening Questionnaire, Eyberg Child Behaviour Inventory, Sutter-Eyberg Student Behaviour Inventory, Pediatric Screening Checklist	二次予防。無作為割付。その他の詳細はない	B
Sutton 1992	前後測定を伴った準無作為比較試験	修学前児童の親41人。他または自己による照会	子育てグループ訓練 (n=8) 家庭訪問 (n=10)電話 (n=12) WL統制 (n=11)	Child Behaviour Questionnaire; home situations	二次予防。連続割付。オリジナルのWLが後の実験として分析に含まれた(クロスオーバー・デザイン)。著者からデータを入手	D

## 除外した調査の特徴

調査ID	除外の理由
Adesso & Lipson 1981	0-3歳児ではなかった
Anastopoulos 1993	0-3歳児ではなかった
Barber 1992	0-3歳児ではなかった
Barkley et al 2000	0-3歳児ではなかった
Barth 1983	児童に関するアウトカムがなかった
Bergan 1983	児童アウトカムについて標準測度がなかった
Bierman 2000	0-3歳児ではなかった マルチモデル
Booth 1987	親のグループ・トレーニングでなかった
Bradley 1984	親のグループ・トレーニングでなかった
Breiner 1984	文献レビュー
Brenner 1999	RCTではなかった
Brestan 1998	文献レビュー
Brody 1985	0-3歳児ではなかった
Browne 1989	児童のアウトカムの測定がなかった
Brunk 1987	0-3歳児ではなかった
Censullo 1994	RCTではなかった
Collins 1992	児童のアウトカムの測定がなかった
Corcoran 2000	文献レビュー
Crummette 1985	児童のアウトカムの測定がなかった
Cunningham 1995	0-3歳児ではなかった
Dadds 1992	0-3歳児ではなかった
Dickinson 1992	統制郡がなかった

<b>Draper 1997</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Ducharme 1996</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Dumas 1984</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Dumas 1986</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Esdale 1995</b>	著者からデータが得られなかった
<b>Evans 1980</b>	実験調査でなかった
<b>Fetsch 1999</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>Forehand 1979</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Forehand 1980</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Forgatch 1979</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Forgatch 1999</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Frank 1981</b>	ケーススタディ
<b>Fulton 1991</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Gainey 1995</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>Golub 1987</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>Gordon 1979</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Harris 1989</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Heinicke 1984</b>	実験調査でなかった
<b>Hewitt 1987</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>Hobbs 1984</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Hutchings 1996</b>	統制郡がなかった
<b>Iven 1989</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>Jarrett 2000</b>	実験調査でなかった
<b>Kissman 1992</b>	RCTではなかった

<b>Lambermon 1989</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Lee 1996</b>	実験調査でなかった
<b>Lutzer 1987</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>Marinho 2000</b>	0-3歳児ではなかった
<b>McBride 1991a</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>McBride 1991b</b>	0-3歳児ではなかった
<b>McDade 1998</b>	アウトカム測定が不適當(行動に関するものでない)
<b>McMahon 1981</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Miller 1980</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Miller 1994</b>	文献レビュー
<b>Moran 1985</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Moreland 1982</b>	文献レビュー
<b>Moxley 1983</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Neef 1995</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Niebel 2000</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Nurcombe 1984</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Nye 1995</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Nye 1999</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Parr 1998</b>	児童のアウトカムの測定がなかった マルチモデル
<b>Pelchat 1999</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Pelham 1998</b>	文献レビュー
<b>Peters 1989</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>Pevsner 1982</b>	0-3歳児ではなかった

<b>Pisterman 1989</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Pisterman 1992</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Puckering 1994</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>Resnick 1985</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Roosa 1983</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Routh 1995</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Sanders 1985</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Sanders 2000</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Sandler 1983</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Schamess 1987</b>	実験調査でなかった
<b>Schultz 1993</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Serketich 1996</b>	文献レビュー
<b>Sheeber 1994</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Sheeber 1995</b>	Sheeber 1994と同様の研究
<b>Shelton 2000</b>	追跡調査
<b>Sibisi 1982</b>	実験調査でなかった
<b>Siegert 1980</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Somers 1980</b>	実験調査でなかった 記述的研究
<b>Strayhorn 1989</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Strayhorn 1991</b>	0-3歳児ではなかった。追跡調査のみ
<b>Telleen 1989</b>	0-7歳児ではなかった 特に1人の児童と関連性がなかった
<b>Thurston 1979</b>	0-3歳児ではなかった

<b>Tiedemann 1992</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Truss</b>	グループベースの介入に加え、乳児が48カ月になるまで小冊子が毎月親に郵送された
<b>Tucker 1997</b>	レビュー
<b>Tucker 1998</b>	本レビューに含まれたGrossの追跡調査
<b>Turner 1994</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Wantz 1984</b>	0-3歳児ではなかった
<b>WebsterStratton 1982</b>	0-3歳児ではなかった
<b>WebsterStratton 1984</b>	0-3歳児ではなかった
<b>WebsterStratton 1989</b>	0-3歳児ではなかった
<b>WebsterStratton 1994</b>	0-3歳児ではなかった
<b>WebsterStratton1982b</b>	0-3歳児ではなかった
<b>WebsterStratton1990</b>	追跡調査
<b>WebsterStratton1990b</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Weinberg 1999</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Whipple 1996</b>	0-3歳児ではなかった
<b>Wilczak 1999</b>	児童のアウトカムの測定がなかった
<b>Wint 1987</b>	親のグループ・トレーニングでなかった
<b>Zachariah 1994</b>	児童のアウトカムの測定がなかった

## 研究のリファレンス

### 含めた研究

**Gross et al 1995** {公表されたデータのみ}

Gross D, Fogg L, Tucker S. The efficacy of parent training for promoting positive parent-toddlerrelationships. *Research in nursing and health* 1995;18:489-499.

**Gross et al ( in press )** {公表されたデータのみ}

Gross L, Fogg L, Webster-Stratton C, Garvey C, Julion W, Grady J. Parent Training with Multi-Ethnic Families of Toddlers win Day Car in Low-Income Urban Communities. *Journal of Consulting and Clinical Psychology* In press.

**Nicholson et al 1998** {公表されたデータのみ}

Nicholson B, Janz P, Fox R. Evaluating a brief parental-education program for parents of young children. *Psychological Reports* 1998;82:1107-1113.

**Nicholson ( in press )** {公表されていないデータの  
み}

Nicholson B, Anderson M, Fox R, Brenner V. One family at a time: A prevention program for at-risk parents. *Journal of Counselling and Development* in press.

**Sutton 1992** {公表された・公表されていないデータのみ}

Sutton C. Training parents to manage difficult children-a comparison of methods. *Behavioural Psychotherapy* 1992;20:115-139.

### 除外した調査

**Adesso & Lipson 1981** {公表されたデータのみ}

Adesso VJ, Lipson JW. Group training of parents as therapists for the children. *Behavior-Therapy* 1981;12(5):625-33.

**Anastopoulos 1993** {公表されたデータのみ}

Anastopoulos AD STDGGD. Parent training for attention-deficit hyperactivity disorder: Its impact on parent functioning. *Journal of Abnormal Child Psychology* 1993;21(5):581-96.

**Barber 1992** {公表されたデータのみ}

Barber JG. Evaluating parent education groups: Effects on sense of competence and social isolation. *Research on Social Work Practice* 1992;2(1):28-38.

**Barkley et al 2000** {公表されたデータのみ}

Barkley RA, Shelton TL, Crosswait C et al. Multi-method psycho-educational intervention for preschool children with disruptive behavior: Preliminary results at post-treatment. *Journal-of-Child-Psychology-and-Psychiatry-and-Allied-Disciplines* 2000;41(3):319-32.

**Barth 1983** {公表されたデータのみ}

Barth RP, Blythe BJ, Schinke SP, Schilling RF. Self-control training with maltreating parents. *Child Welfare* 1983;62(4):313-24.

**Bergan 1983** {公表されたデータのみ}

Bergan JR, Neumann AJ, Karp CL. Effects of parent training on parent instruction and child learning of intellectual skills. *Journal of School Psychology* 1983;21(1):31-9.

**Bierman 2000** {公表されたデータのみ}

Bierman KL, Coie JD, Dodge KA et al. Merging universal and indicated prevention programs: The fast track model. *Addictive Behaviors* 2000;25(6):913-27.

**Booth 1987** {公表されたデータのみ}

Booth CL, Barnard KE, Mitchell SK, Spieker SJ. Successful intervention with multi-problem mothers: Effects on the mother-infant relationship. *Infant Mental Health Journal* 1987;8(3):288-306.

**Bradley 1984** {公表されたデータのみ}

Bradley JS, Tardona D, Johnson CM, Stack J. Assessment-based parent education for families of infants in a medical practice. *Journal of Preventive Psychiatry* 1984;2(2):233-45.

**Breiner 1984** {公表されたデータのみ}

Breiner J, Beck S. Parents as change agents in the management of their developmentally delayed children's noncompliant behaviors: a critical review. *Appl-Res-Ment-Retard* 1984;5(2):259-78.

**Brenner 1999** {公表されたデータのみ}

\* Brenner V, Nicholson B, Fox R. Evaluation of a community-based parenting program with the parents of young children. *Early Child Development and Care* 1999;148:1-9.

**Brestan 1998** {公表されたデータのみ}

Brestan EV, Eyberg SM. Effective Psychosocial Treatments of Conduct-Disordered Children and Adolescents: 29 Years, 82 Studies, and 5,272 Kids. *Journal of Clinical Child Psychology* 1998;27(2):180-9.

**Brody 1985** {公表されたデータのみ}

Brody GH, Forehand R. The efficacy of parent training with maritally distressed and nondistressed mothers: A multimethod assessment. *Behaviour Research and Therapy* 1985 1985;23(3):291-6.

**Browne 1989** {公表されたデータのみ}

Browne DH. Incarcerated mothers and parenting. *Journal-of-Family-Violence* 1989;Vol 4(2):211-21.

**Brunk 1987** {公表されたデータのみ}

Brunk MA, Henggeler SW, Whelan JP. Comparison of multisystemic therapy and parent training in the brief treatment of child abuse and neglect. *Journal of Consulting and Clinical Psychology* 1987;55(2):171-8.

**Censullo 1994** {公表されたデータのみ}

Censullo M. Strategy for promoting greater responsiveness in adolescent parent/infant relationships: report of a pilot study. *Journal of Pediatric Nursing* 1994;9(5):326-32.

**Collins 1992** {公表されたデータのみ}

Collins C, Tiedje LB, Stommel M. Promoting positive well-being in employed mothers: a pilot study. *Health-Care-Women-Int* 1992;13(1):77-85.

**Corcoran 2000** {公表されたデータのみ}

Corcoran J. Family treatment of preschool behavior problems.. *Research on Social Work Practice* 2000;10(5):547-88.

**Crummette 1985** {公表されたデータのみ}

Crummette BD, Thompson GM, Beale AV. Fathernfant Interaction Program: Preparation for parenthood.. Infant Mental Health Journal 1985;6(2):89-97.

**Cunningham 1995** {公表されたデータのみ}

Cunningham CE, Bremner R, Boyle M. Large Group Community-Based Parenting Programs for Families of Preschoolers at Risk for Disruptive Behavior Disorders - Utilization, Cost-Effectiveness, and Outcome. Journal of Child Psychology and Psychiatry and Allied Disciplines 1995;36(7):1141-59.

**Dadds 1992** {公表されたデータのみ}

Dadds MR, McHugh TA. Social support and treatment outcome in behavioral family therapy for child conduct problems. J-Consult-Clin-Psychol 1992;60(2):252-9.

**Dickinson 1992** {公表されたデータのみ}

Dickinson N CD. Parent education for adolescent mothers. Journal of Primary Prevention 1992;13(1):23-35.

**Draper 1997** {公表されたデータのみ}

Draper TW, Larsen JM, Rowles R. Developmentally appropriate parent training for families with young children.. Early Childhood Research Quarterly 1997;12(4):487-504.

**Ducharme 1996** {公表されたデータのみ}

Ducharme JM, Popynick M, Pontes E, Steele S. Errorless compliance to parental requests III: Group parent training with parent observational data and long-term follow-up. Behavior-Therapy 1996;27(3):353-72.

**Dumas 1984** {公表されたデータのみ}

Dumas JE. Interactional Correlates of Treatment Outcome in Behavioral Parent Training. Journal of Consulting and Clinical Psychology 1984;52(6):946-54.

**Dumas 1986** {公表されたデータのみ}

Dumas JE, Albin JB. Parent training outcome: does active parental involvement matter? Behaviour Research and Therapy 1986;24(2):227-30.

**Esdaile 1995** {公表されなかったデータを検索したが使用しなかった}

Esdaile SE. A play-focused intervention involving mothes of preschoolers. American Journal of Occupational Therapy 1995;50(2):113-213.

**Evans 1980** {公表されたデータのみ}

Evans J, Taylor RE. Use of videotape in parent education. Am-Ann-Deaf 1980;125(6):710-3.

**Fetsch 1999** {公表されたデータのみ}

Fetsch RJ, Schultz CJ, Wahler JJ. A preliminary evaluation of the Colorado RETHINK Parenting and Anger Management program. Child-Abuse-Negl 1999;23(4):353-60.

**Forehand 1979** {公表されたデータのみ}

Forehand R, Griest DL, Wells KC. Parent behavioral training: an analysis of the relationship among multiple outcome measures. J-Abnorm-Child-Psychol 1979;7(3):229-42.

**Forehand 1980** {公表されたデータのみ}

Forehand R, Wells KC, Griest DL. An examination of the social validity of a parent training program. Behavior Therapy 1980;11(4):488-502.

**Forgatch 1979** {公表されたデータのみ}

Forgatch MS, Toobert DJ. A cost-effective parent training program for use with normal preschool children. Journal-of-Pediatric-Psychology 1979;4(2):129-45.

**Forgatch 1999** {公表されたデータのみ}

Forgatch MS, DeGarmo DS. Parenting through change: An effective prevention program for single mothers. Journal-of-Consulting-and-Clinical-Psychology 1999;67(5):711-24.

**Frank 1981** {公表されたデータのみ}

Frank E, Rowe DA. Primary prevention: Parent education, mothernfant groups in a general hospital setting.. Journal of Preventive Psychiatry 1981;1(2):169-78.

**Fulton 1991** {公表されたデータのみ}

Fulton AM, Murphy KR, Anderson SL. Increasing adolescent mothers' knowledge of child development: an intervention program. Adolescence 1991;26(101):73-81.

**Gainey 1995** {公表されたデータのみ}

Gainey R Ra, Catalano RF, Haggerty KP, Hoppe MJ. Participation in a parent training program for methadone clients. *Addictive-Behaviors* 1995;20(1):117-25.

**Golub 1987** {公表されたデータのみ}

Golub JS, Espinosa M, Damon L, Card J. A videotape parent education program for abusive parents. *Child-Abuse-Negl* 1987;11(2):255-65.

**Gordon 1979** {公表されたデータのみ}

Gordon SB, Lerner LL, Keefe FJ. Responsive parenting: an approach to training parents of problem children. *Am-J-Community-Psychol* 1979;7(1):45-56.

**Harris 1989** {公表されたデータのみ}

Harris J LJ. Parent education as a mandatory component of preschool: effects on middle-class, educationally advantaged parents and children. *Early Childhood Research Quarterly* 1989;4(3):275-87.

**Heinicke 1984** {公表されたデータのみ}

Heinicke C, Carlin E, Given K. Parent and mother-infant groups: Building a support system.. *Young Children* 1984;39(3):21-7.

**Hewitt 1987** {公表されたデータのみ}

Hewitt K, Galbraith L. Postnatal classes on prevention of sleeplessness in young children. *Child-Care-Health-Dev* 1987;13(6):415-20.

**Hobbs 1984** {公表されたデータのみ}

Hobbs SA, Walle DL, Caldwell HS. Maternal evaluation of social reinforcement and time-out: effects of brief parent training. *J-Consult-Clin-Psychol* 1984;52(1):135-6.

**Hutchings 1996** {公表されたデータのみ}

Hutchings J. Evaluating a behaviourally based parent training group: outcomes for parents, children and health visitors. *Behavioural and Cognitive Psychotherapy* 1996;24:149-170.

**Iven 1989** {公表されたデータのみ}

Iven CJ, Albritton EG, Eaton BB, Montague JC. A pilot study on the effect of training parents of language-delayed children in pragmatic interaction strategies. *Perceptual and Motor Skills* 1989;69(1):295-303.

**Jarrett 2000** {公表されたデータのみ}

Jarrett MH, Diamond LT, El Mohandes A. Group intervention as one facet of a multi-component intervention with high risk mothers and their babies. *Infants-and-Young-Children* 2000;13(1):15-24 (36 ref).

**Kissman 1992** {公表されたデータのみ}

Kissman K. Parent skills training: expanding school-based services for adolescent mothers. *Research on Social Work Practice* 1992;2(2):161-71.

**Lambermon 1989** {公表されたデータのみ}

Lambermon M vIM. Influencing mother-infant interaction through videotaped or written instruction: evaluation of a parent education program. *Early Childhood Research Quarterly* 1989;4(4):449-58.

**Lee 1996** {公表されたデータのみ}

Lee A. Waiting for speech therapy: a group to help the under-3s. *Prof-Care-Mother-Child* 1996;6(4):105-8.

**Lutzer 1987** {公表されたデータのみ}

Lutzer VD. An educational and peer support group for mothers of preschoolers at-risk for behavior disorders.. *Journal of Primary Prevention* 1987;7(3):153-61.

**Marinho 2000** {公表されたデータのみ}

Marinho ML, De Mattos Silvaes EF. Assessment of the effectiveness of a group parents training program.. *Psicologia-Conductual* 2000;8(2):299-318.

**McBride 1991a** {公表されたデータのみ}

McBride BA. Parent education and support programs for fathers: Outcome effects on paternal involvement.. *Early Child Development and Care* 1991;67:73-85.

**McBride 1991b** {公表されたデータのみ}

McBride BA. Parental support programs and paternal stress: An exploratory study. *Early Childhood Research Quarterly* 1991;6(2):137-49.

**McDade 1998** {公表されたデータのみ}

McDade A, McCartan P. 'Partnership with parents' a pilot project. *Int-J-Lang-Commun-Disord* 1998;33 Suppl:556-61.

**McMahon 1981** {公表されたデータのみ}

McMahon RJ, Forehand R, Griest DL. Effects of knowledge of social learning principles on enhancing treatment outcome and generalization in a parent training program. *Journal of Consulting and Clinical Psychology* 1981;49(4):526-32.

**Miller 1980** {公表されたデータのみ}

Miller A, Ellis J. A behaviour management course for a group of mothers: The importance of the course setting for effective use of available resources. *Child Care, Health and Development* 1980;6(3):147-55.

**Miller 1994** {公表されたデータのみ}

Miller LS. Primary prevention of conduct disorder.. *Psychiatric Quarterly* 1994;65(4):273-85.

**Moran 1985** {公表されたデータのみ}

Moran DR, Whitman TL. The multiple effects of a play-oriented parent training program for mothers of developmentally delayed children.. *Analysis and Intervention in Developmental Disabilities* 1985;5(1-2):73-96.

**Moreland 1982** {公表されたデータのみ}

Moreland JR, Schwebel AI, Beck S, Wells I. Parents as therapists: A review of the behavior therapy parent training literature -1975 to 1981. *Behavior-Modification* 1982;6(2):250-76.

**Moxley 1983** {公表されたデータのみ}

Moxley Haegert L, Serbin LA. Developmental education for parents of delayed infants: effects on parental motivation and children's development. *Child-Dev* 1983;54(5):1324-31.

**Neef 1995** {公表されたデータのみ}

Neef NA. Pyramidal Parent Training by Peers. *Journal of Applied Behavior Analysis* 1995;28(3):333-7.

**Niebel 2000** {公表されたデータのみ}

Niebel G, Kallweit C, Lange I, Folster Holst R. [Direct versus video-aided parent education in atopic eczema in childhood as a supplement to specialty physician treatment. A controlled pilot study]. *Hautarzt* 2000;51(6):401-11.

**Nurcombe 1984** {公表されたデータのみ}

Nurcombe B, et al. An intervention program for mothers of low-birthweight infants: Preliminary results. *Journal of the American Academy of Child Psychiatry* 1984;23(3):319-25.

**Nye 1995** {公表されたデータのみ}

Nye CL, Zucker RA, Fitzgerald HE. Early intervention in the path to alcohol problems through conduct problems: treatment involvement and child behavior change. *J-Consult-Clin-Psychol* 1995;63(5):831-40.

**Nye 1999** {公表されたデータのみ}

Nye CL, Zucker RA, Fitzgerald HE. Early family-based intervention in the path to alcohol problems: Rationale and relationship between treatment process characteristics and child and parenting outcomes.. *Journal of Studies on Alcohol* 1999;60(SUPPL. 13):10-21.

**Parr 1998** {公表されたデータのみ}

Parr M. Parent education. A new approach to parent education. *British-Journal-of-Midwifery* 1998;6(3):160-5.

**Pelchat 1999** {公表されたデータのみ}

Pelchat D, Bisson J, Ricard N, Perreault M, Bouchard JM. Longitudinal effects of an early family intervention programme on the adaptation of parents of children with a disability.. *Int-J-Nurs-Stud* 1999;36(6):465-77.

**Pelham 1998** {公表されたデータのみ}

Pelham WE, Wheeler T, Chronis A. Empirically Supported Psychosocial Treatments for Attention Deficit Hyperactivity Disorder. *Journal of Clinical Child Psychology* 1998;27(2):190-205.

**Peters 1989** {公表されたデータのみ}

Peters CL, Platz DL, Fox RA. Use of the adjective generation technique to measure effects of training parents. *Psychological Reports* 1989;65(3 PART 2):1216-8.

**Pevsner 1982** {公表されたデータのみ}

Pevsner R. Group parent training versus individual family therapy: an outcome study. *J-Behav-Ther-Exp-Psychiatry* 1982;13(2):119-22.

**Pisterman 1989** {公表されたデータのみ}

Pisterman S, McGrath P, Firestone P, Goodman JT, Webster I, Mallory R. Outcome of parent-mediated treatment of preschoolers with attention deficit disorder with hyperactivity. *J-Consult-Clin-Psychol* 1989;57(5):628-35.

**Pisterman 1992** {公表されたデータのみ}

Pisterman S, Firestone P, McGrath P et al. The role of parent training in treatment of preschoolers with ADDH. *Am-J-Orthopsychiatry* 1992;62(3):397-408.

**Puckering 1994** {公表されたデータのみ}

Puckering Christine, Rogers John, Mills Maggie, Cox A D, Mattsson Graf Magdalena. Process and evaluation of a group intervention for mothers with parenting difficulties. *Child-Abuse-Review* 1994;Vol 3(4):299-310.

**Resnick 1985** {公表されたデータのみ}

Resnick G. Enhancing parental competencies for high risk mothers: an evaluation of prevention effects. *Child-Abuse-Negl* 1985;9(4):479-89.

**Roosa 1983** {公表されたデータのみ}

Roosa M VL. Teen mothers enrolled in an alternative parenting program: a comparison with their peers. *Urban Education* 1983;18(3):348-60.

**Routh 1995** {公表されたデータのみ}

Routh CP, Hill JW, Steele H, Elliot CE, Dewey ME. Maternal attachment status, psychosocial stressors and problem behaviour: Follow-up after parent training courses for conduct disorder.. *Journal of Child Psychology and Psychiatry and Allied Disciplines* 1995;36(7):1179-98.

**Sanders 1985** {公表されたデータのみ}

Sanders MR, Christensen AP. A comparison of the effects of child management and planned activities training in five parenting environments. *J-Abnorm-Child-Psychol* 1985;13(1):101-17.

**Sanders 2000** {公表されたデータのみ}

Sanders MR, Markie Dadds C, Tully LA, Bor W. The Triple P-positive parenting program: A comparison of enhanced, standard, and self-directed behavioral family intervention for parents of children with early onset conduct problems.. *Journal of Consulting and Clinical Psychology* 2000;68(4):624-40.

**Sandler 1983** {公表されたデータのみ}

Sandler A, Coren A, Thurman SK. A training program for parents of handicapped preschool children: Effects upon mother, father, and child.. *Exceptional Children* 1983;49(4):355-8.

**Schamess 1987** {公表されたデータのみ}

Schamess G. Parallel mother/infant/toddler groups: A developmentally oriented intervention programme for unmarried teenage mothers. *Journal-of-Social-Work-Practice* 1987;2(4):29-48.

**Schultz 1993** {公表されたデータのみ}

Schultz CL, Schultz NC, Bruce EJ, Smyrnios KX, et al. Psychoeducational support for parents of children with intellectual disability: An outcome study. *International-Journal-of-Disability,-Development-and-Education* 1993;Vol 40(3):205-16.

**Serketich 1996** {公表されたデータのみ}

Serketich WJ, Dumas JE. The effectiveness of behavioral parent training to modify antisocial behavior in children: A meta-analysis.. *Behavior Therapy* 1996;27(2):171-86.

**Sheeber 1994** {公表されたデータのみ}

Sheeber LB, Johnson JH. Evaluation of a temperament-focused, parent-training program.. *Journal of Clinical Child Psychology* 1994;23(3):249-59.

**Sheeber 1995** {公表されたデータのみ}

Sheeber LB. Empirical dissociations between temperament and behavior problems: A

response to the Sanson, Prior, and Kyrios study.. Merrill Palmer Quarterly  
1995;41(4):554-61.

**Shelton 2000**

{公表されたデータのみ}

Shelton TL, Barkley RA, Crosswait C et al. Multimethod psychoeducational intervention for preschool children with disruptive behavior: Two-year post-treatment follow-up.. Journal of Abnormal Child Psychology 2000;28(3):253-66.

**Sibisi 1982**

{公表されたデータのみ}

Sibisi YT, Yule W. Parent training in a small group: a pilot study. Child-Care-Health-Dev 1982;8(3):141-50.

**Siegert 1980**

{公表されたデータのみ}

Siegert FE, Yates BT. Behavioral child-management cost-effectiveness. A comparison of individual in-office, individual in-home, and group delivery systems. Evaluation-and-the-Health-Professions 1980;3(2):123-52.

**Somers 1980**

{公表されたデータのみ}

Somers MN. The use of videotaping for self-evaluation in parent training. Am-Ann-Deaf 1980;125(6):729-30.

**Strayhorn 1989**

{公表されたデータのみ}

Strayhorn JM, Weidman CS. Reduction of attention deficit and internalizing symptoms in preschoolers through parent-child interaction training [published erratum appears in J Am Acad Child Adolesc Psychiatry 1990 Mar;29(2):314]. J-Am-Acad-Child-Adolesc-Psychiatry 1989;28(6):888-96.

**Strayhorn 1991**

{公表されたデータのみ}

Strayhorn JM, Weidman CS. Follow-up one year after parent^child interaction training: Effects on behavior of preschool children. Journal-of-the-American-Academy-of-Child-and-Adolescent-Psychiatry 1991;Vol 30(1):138-43.

**Strydom 1981**

{公表されたデータのみ}

Strydom LM, Strydom J. Emotional and behavioural problems in children. Parent training and the rationalization of resources. South-African-Medical-Journal 1981;59(4):118-20.

**Telleen 1989**

{公表されたデータのみ}

Telleen S, Herzog A, Kilbane TL. Impact of a family support program on mothers' social support and parenting stress. *Am-J-Orthopsychiatry* 1989;59(3):410-9.

**Thurston 1979** {公表されたデータのみ}

Thurston LP. Comparison of the effects of parent training and of ritalin in treating hyperactive children. *International-Journal-of-Mental-Health* 1979;8(1):121-8.

**Tiedemann 1992** {公表されたデータのみ}

Tiedemann GL, Johnston C. Evaluation of a Parent Training-Program to Promote Sharing Between Young Siblings. *Behavior Therapy* 1992;23(2):299-318.

**Truss** {公表されたデータのみ}

Truss C BJHVLK. Parent training in preprimary competence. In: Paper Presented at Annual Convention of the American Psychological Association. 1977.

**Tucker 1997** {公表されたデータのみ}

Tucker S, Gross D. Behavioral Parent Training: an intervention strategy for guiding parents of young children. *Journal-of-Perinatal-Education* 1997;6(2):35-44.

**Tucker 1998** {公表されたデータのみ}

Tucker S, Gross D, Fogg L, Delaney K, Lapporte R. The long-term efficacy of a behavioral parent training intervention for families with 2-year-olds. *Research-in-Nursing-and-Health* 1998;21(3):199-210 (48 ref).

**Turner 1994** {公表されたデータのみ}

Turner KMT, Sanders MR, Wall CR. Behavioural parent training versus dietary education in the treatment of children with persistent feeding difficulties. *Behaviour-Change* 1994;11(4):242-58.

**Wantz 1984** {公表されたデータのみ}

Wantz RA, Recor RD. Simultaneous parent^child group intervention.. *Elementary School Guidance and Counseling* 1984;19(2):126-31.

**WebsterStratton 1982** {公表されたデータのみ}

Webster Stratton C. The long-term effects of a videotape modeling parent-training

program: Comparison of immediate and 1-year follow-up results. Behavior-Therapy 1982;13(5):702-14.

**WebsterStratton 1984** {公表されたデータのみ}

Webster Stratton C. Randomized trial of two parent-training programs for families with conduct-disordered children. J-Consult-Clin-Psychol 1984;52(4):666-78.

**WebsterStratton 1989** {公表されたデータのみ}

Webster Stratton C, Hollinsworth T, Kolpacoff M. The long-term effectiveness and clinical significance of three cost-effective training programs for families with conduct-problem children. Journal of Consulting and Clinical Psychology 1989;57(4):550-3.

**WebsterStratton 1994** {公表されたデータのみ}

Webster Stratton C. Advancing videotape parent training: a comparison study. Journal of Consulting and Clinical Psychology 1994;62(3):583-93.

**WebsterStratton1982b** {公表されたデータのみ}

Webster Stratton C. Teaching mothers through videotape modeling to change their children's behavior.. Journal of Pediatric Psychology 1982;7(3):279-94.

**WebsterStratton1990** {公表されたデータのみ}

Webster Stratton C. Predictors of treatment outcome in parent training for families with conduct problem children. BEHAVIOR THERAPY 1990;21(3):319-38.

**WebsterStratton1990b** {公表されたデータのみ}

Webster Stratton C. Long-term follow-up of families with young conduct problem children: From preschool to grade school.. Journal of Clinical Child Psychology 1990;19(2):144-9.

**Weinberg 1999** {公表されたデータのみ}

Weinberg HA. Parent training for attention-deficit hyperactivity disorder: parental and child outcome. J-Clin-Psychol 1999;55(7):907-13.

**Whipple 1996** {公表されたデータのみ}

Whipple EE, Wilson SR. Evaluation of a parent education and support program for families at risk of physical child abuse. Families-in-Society 1996;Vol 77(4):227-39.

**Wilczak 1999**

{公表されたデータのみ}

Wilczak GL, Markstrom CA. The effects of parent education on parental locus of control and satisfaction of incarcerated fathers. International-Journal-of-Offender-Therapy-and-Comparative-Criminology 1999;Vol 43(1):90-102.

**Wint 1987**

{公表されたデータのみ}

Wint E BJ. Promoting effective parenting: a study of two methods in Kingston, Jamaica. Child Welfare 1987;66(6):507-16.

**Zachariah 1994**

{公表されたデータのみ}

Zachariah R. Perceived social support and social network of low-income mothers of infants and preschoolers: pre-and postparenting program. J-Community-Health-Nurs 1994;11(1):11-20.

**査定を行う予定の研究**

**Gross 2002**

{公表されたデータのみ}

Gross D, Fogg L. Parent training with multi-ethnic families of toddlers in day-care in low-income urban communities. Journal of Consulting and Clinical Psychology. In press.

\*研究用の主要なリファレンスを示す

## その他のリファレンス

### リファレンスの追加

#### **Astington 1994**

Astington JW. *The Child's Discovery of the Mind*. London: Fontana, 1994.

#### **Barlow 2001**

Barlow J, Stewart-Brown S. Review article: behaviour problems and parent-training programs. *Journal of Developmental and Behavioural Pediatrics* 2000;21(5):356-370.

#### **Barlow 2000**

Barlow J and Coren E. Parenting programmes and maternal psychosocial wellbeing. In: *The Cochrane Library*, Issue 3, 2000. Oxford: Update Software.

#### **Barnes 1984**

Barnes GM. Adolescent alcohol abuse and other problem behaviour: Their relationship and common parental influences. *Journal of Youth and Adolescence* 1984;13:329-84.

#### **Baumrind 1985**

Baumrind D. Familial antecedents of adolescent drug use: A developmental perspective. In: *Etiology of drug abuse: Implications for preventions*. NIDA Research Monograph 56, A RAUS Review Report, 1985:13-44.

#### **Bone 1989**

Bone M, Meltzer H. The prevalence of disability among children. In: *OPCS Surveys of disability in Great Britain*. Vol. Report 3. London: HMSO, 1989.

#### **Brenner 1999**

Brenner V, Fox RA. Parental discipline and behavior problems in young children. *Journal of Genetic Psychology* 1998;159(2):251-256.

#### **Campbell 1995**

Campbell SB. Behavior Problems in Preschool children: A Review of Recent Research. *Journal of Child Psychology and Psychiatry* 1995;36(1):113-149.

#### **Carlson 1995**

Carlson EA, Sroufe AL. Contribution of attachment theory to developmental psychopathology. In: Cicchetti D, Cohen DJ, editor(s). *Developmental psychopathology*, Vol. 1: Theory and methods. Wiley, 1995:581-617.

### **Champion 1995**

Champion LA, Goodall G, Rutter M. Behaviour problems in childhood and stressors in early adult life: 1. A 20 year follow-up of London school children. *Psychiatric Medicine* 1995;25(2):231-246

### **Charlton 1995**

Charlton T, Abrahams M, Jones K. Prevalence rates of emotional and behavioural disorder among nursery class children in St Helena, South Atlantic: An epidemiological study. *Journal of Social Behaviour and Personality* 1995;10(1):273-280.

### **Cogill 1986**

Cogill S, Caplan H, Alexandra H, Robson K, Kamar R. Maternal depression and the emotional development of the child. *British Medical Journal* 1986;292:1165-7.

### **Dahl 1996**

Dahl RE. The impact of inadequate sleep on children's daytime cognitive function. *Semin Pediatr Neurol* 1996;3:44-50.

### **DoH 1995**

Department of Health. Improving the Health of Mothers and Children: NHS Priorities for Research and Development. London: Stationery Office, 1995.

### **Egeland 1993**

Egeland BE, Carlson E, Sroufe A. Resilience as Process. In: *Development and Psychopathology*. Cambridge: Cambridge University Press, 1993.

### **Eron 1990**

Eron LD, Huesmann LR. The stability of aggressive Behavior - Even in to the Third Generation, in Lewis M, Miller SM (eds): *Handbook of Developmental Psychopathology*. New York: Plenum Press, 1990, pp. In: Lewis M, Miller SM, editor(s). *Handbook of Developmental Psychopathology*. New York: Plenum Press, 1990:147-156.

### **Farrington 1991**

Farrington DP. Childhood Aggression and Adult Violence: Early Precursors and Later Life Outcomes. In: *The Development and Treatment of Adult Aggression*. Lawrence Erlbaum. Hillsdale, NJ, 1991:5-29.

### **Farrington 1994**

Farrington DP. Early developmental prevention of juvenile delinquency. *Criminal Behaviour and Mental Health* 1994;4:209-227.

### **Fonagy 1997**

Fonagy P, Redfern S, Charman T. The relationship between belief-desire reasoning and a projective measure of attachment security (SAT). *British Journal of Developmental Psychology* 1997;15:51-61.

### **Fonagy 1998**

Fonagy P. Prevention, the appropriate target of infant psychotherapy. *Infant Mental Health Journal* 1998;19(2):124-150.

### **Frankel 1992**

Frankel, Simmons F and Simmons JQ. Parent behavioral training: why and when some parents drop out. *Journal of Clinical Psychology* 1992;4:322-330.

### **Garnier 1998**

Garnier HE, Stein JA. Values and the family: Risk and protective factors for adolescent problem behaviours. *Youth and Society* 1998;30(1):89-120.

### **Horne 1988**

Horne JA. Sleep loss and "divergent" thinking ability. *Sleep* 1988;11:528-536.

### **Johnson 1973**

Johnson CA, Katz RC. Using parents as change agents for their children: A review. *Journal of Child Psychology and Psychiatry and Allied Disciplines* 1973;14(3):181-200.

### **Kazdin 1990**

Kazdin AE. Premature termination from treatment among children referred for antisocial behavior. *Journal of child psychology and psychiatry* 1990;31(3):415-425.

### **Loeber 1983**

Loeber R, Dishion TJ. Early predictors of male delinquency: A review. *Psychological Bulletin* 1983;94:68-99.

### **Loeber 1997**

Loeber R and Hay D. Key issues in the development of aggression and violence from childhood to early adulthood. *Annual Review of Psychology* 1997;48:371-410.

### **Moffit 1996**

Moffit TE, Caspi A, Dickson N, Silva P et al. Childhood-onset versus adolescent-onset antisocial conduct problems in males: Natural history from ages 3 to 18 years.

Developmental Psychiatry 1996;8(2):399-424.

### **Murray 1990**

Murray L. The impact of maternal depression on infant development. In: de Cagno L (Ed). Dal nascere al divenire nella realta e nella fantasia. In: de Cagno L, editor(s). Dal nascere al divenire nella realta e nella fantasia. Turin: Turin University, 1990.

### **Offord 1994**

Offord MD, Bennett KJ. Conduct disorder: Long-term outcomes and intervention effectiveness. Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry 1994;33(8):1069 -1078.

### **Ogawa 1997**

Ogawa JR, Sroufe AL, Weinfeild NS, Carlson EA, Egeland B. Development and the fragmented self: Longitudinal study of dissociative symptomatology in a nonclinical sample. Development and Psychopathology 1997;9(4):855-879.

### **Patterson 1989**

Patterson GR, DeBaryshe D, Ramsey E. A developmental perspective on antisocial behavior. American Psychiatry 1989;44(2):329-335.

### **Patterson 1993**

Patterson GR, Dishion TJ, Chamberlain P. Outcomes and Methodological Issues Relating to Treatment of Antisocial children. In: Giles TR, editor(s). Handbook of Effective Psychotherapy. New York: Plenum Press, 1993.

### **Power 1990**

Power C, Manor O, Fox AJ, Fogelman K. Health in childhood and social inequalities in young adults. Journal of the Royal Statistical Society (series A) 1990;153:17 -28.

### **Pugh 1994**

Pugh G, De'Ath E, Smith C. Confident Parents, confident children: Policy and practice in parent education and support. London: National Children's Bureau, 1994.

### **Reid 1984**

Reid JB & Patterson GR. Early prevention and intervention with conduct problems: A social interactional model for the integration of research and practice. In: Interventions for Achievement and Behavior Problems. Washington DC: National Association of School Psychologists, 1991:715-740.

### **Reid 1991**

Reid JB & Patterson GR. Early prevention and intervention with conduct problems: A social interactional model for the integration of research and practice. In: MR Shinn & HM Walker, editor(s). Interventions for achievement and behavior problems. Washington, DC: National Association of School Psychologists, 1991:715-740.

### **Robins 1981**

Robins LN. Epidemiological approaches to natural history research: Antisocial disorders in children. *Journal of the American Academy of Child Psychiatry* 1981;20:566-680.

### **Robins 1990**

Robins LN, Rutter M, (eds). Straight and devious pathways from childhood to adulthood. Cambridge: Cambridge University Press, 1990.

### **Robins 1991**

Robins LN. Conduct Disorder. *Journal of Child Psychology and Psychiatry* 1991;32(1):193-212.

### **Rose 1974**

Rose SD,. Group training of parents as behaviour modifiers. *Social Work* 1974;19(2):156-62.

### **Rutter 1996**

Rutter M. Connections between child and adult psychopathology. *European Child and Adolescent Psychiatry* 1996(a);5(Suppl 1):4-7.

### **Shaw 2001**

Shaw DJ, Owens EB, Giovannelli J, Winstow EB. Infant and toddler pathways leading to early externalising disorders. *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry* 2001;40(1):36-43.

### **St James-Roberts**

St James-Roberts I, Singh G, Lynn R, Jackson S. Assessing emotional and behavioural problems in reception class school-children: factor structure, convergence and prevalence using PBCL. *British Journal of Educational Psychology* 1994;64(1):105-118.

### **Stein 1991**

Stein A, Gath DH, Bucher J, Bond A, Day A, Cooper PJ. The relationship between postnatal depression and mother child interaction. *British Journal of Psychiatry* 1991;158:46-52.

**Stewart-Brown 1998**

Stewart-Brown S. The public health implications of childhood behaviour disorder and parenting programmes. In: Parenting, Schooling and children's Behaviour. Ashgate Press, 1998.

**Strain 1981**

Strain PS, Young CC and Horowitz J. Generalised behavior change during oppositional child training. Behavior Modification 1981;5:15-26.

**Szyndler 1992**

Szyndler J and Bell G. Are groups for parents of children with sleep problems effective? Health Visitor 1992;65(8):277-279.

**Velez 1989**

Velez CT, Johnson J and Cohen P. A longitudinal analysis of selected risk factors for childhood psychopathology. Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry 1989;28:861-864.

**Warren 1997**

Warren SL, Huston L, Egeland B, Sroufe LA. Child and adolescent anxiety disorders and early attachment. Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry 1997;36(5):637-644.

**Zuckerman 1987**

Zuckerman B, Stevenson J, Bailey V. Sleep problems in early childhood: Continuities, predictive factors and behavioral correlates. Pediatrics 1987;80:664-671.

## 比較表

- 01 parent training vs control 子育て訓練 vs 統制
- 01 Emotional and Behavioural Outcomes 情緒・行動アウトカム
- 01 Behaviour Screening Questionnaire
- 02 ECBI intensity -mother report 強度 母親レポート
- 03 ECBI problems-mother report 問題 母親レポート
- 04 Toddler Temperament Scale -mother report - 母親レポート
- 05 ECBI intensity-father report 強度 父親レポート
- 06 ECBI problems-father report 問題 - 父親レポート
- 07 Toddler Temperament Scale -father report - 父親レポート
- 08 Child Behaviour Questionnaire
- 09 Home Situations Questionnaire
- 10 Pediatric Symptom Checklist -parent report - 親によるレポート
- 11 Pediatric Symptom Checklist -teacher report - 教員によるレポート
- 12 Sutter-Eyberg Behaviour Inventory (Intensity) -teacher report  
(強度) - 教員によるレポート
- 13 Sutter-Eyberg Behaviour Inventory (Problems) -teacher report  
(問題) - 教員によるレポート
- 14 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Labeled praise (mothers)  
- 特定化してほめる (母親)
- 15 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Unlabeled praise (mothers)  
- 特定化せずほめる (母親)
- 16 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Critical statements (mothers)  
- 批判的な言葉 (母親)
- 17 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Physical negative behaviour  
- 身体への否定的な行動
- (mothers)
- 18 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Positive affect (mothers)  
- 肯定的な感情 (母親)
- 19 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Commands (mothers)  
- 命令 (母親)
- 20 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Child negative behavior  
児童の否定的な行動
- (mothers)
- 21 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Labeled praise (fathers)  
- 特定化してほめる (父親)
- 22 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Unlabeled praise (fathers)  
- 特定化せずほめる (父親)
- 23 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Critical statements (fathers)  
- 批判的な言葉 (父親)

- 24 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Physical negative behavior  
- 身体への否定的な行動  
(fathers)
- 25 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Positive affect (fathers)  
- 肯定的な感情 (父親)
- 26 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Commands (fathers)  
- 命令 (父親)
- 27 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Child negative behaviour  
児童の否定的な行動  
(fathers)
- 28 ECBI – Total 総合
- 29 ECBI –Intensity 強度
- 30 ECBI -Oppositional 反抗的
- 31 ECBI –Inattentive 注意力の欠如
- 32 ECBI –Conduct 行為
- 33 Classroom Behaviour Problems (KPC)
- 34 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System-Revised -Negative Behaviour  
否定的な行動
- 02 Meta-analysis メタ・アナリシス
- 01 Emotional and Behavioural Outcomes -parent-report 親によるレポート
- 02 Emotional and Behavioural Outcomes -Independent observation 独立観察
- 03 Follow-up 追跡
- 01 Emotional and Behavioural Outcomes 情緒・行動アウトカム
- 01 ECBI Intensity -mother report 強度 - 母親レポート
- 02 ECBI problems -mother report 問題 - 母親レポート
- 03 Toddler Temperament Scale -mother report - 母親レポート
- 04 ECBI intensity -father report 強度 - 父親レポート
- 05 ECBI problems -father report 問題 - 父親レポート
- 06 Toddler Temperament Scale -father report 父親レポート
- 07 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Labeled praise (mothers)  
- 特定化してほめる (母親)
- 08 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Unlabeled praise (mothers)  
- 特定化せずほめる (母親)
- 09 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Critical statements (mothers)  
批判的な言葉 (母親)
- 10 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Physical negative behaviour  
身体への否定的な行動  
(mothers)
- 11 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Positive affect (mothers)  
- 肯定的感情 (母親)
- 12 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Commands (mothers)

命令 (母親)

- 13 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Child negative behavior  
- 児童の否定的な行動  
(mothers)
- 14 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Labeled praise (fathers)  
- 特定化してほめる (父親)
- 15 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Unlabeled praise (fathers)  
- 特定化せずほめる (父親)
- 16 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Critical statements (fathers)  
- 批判的な言葉 (父親)
- 17 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Physical negative behaviour  
- 児童の否定的な行動  
(fathers)
- 18 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -positive affect (fathers)  
- 肯定的な感情 (父親)
- 19 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Commands (fathers)  
- 命令 (父親)
- 20 Dyadic Parent-Child Interaction Coding System (DPICS) -Child negative behavior (fathers)  
- 児童の否定的な行動 (父親)
- 21 ECBI – Total 総合
- 22 ECBI –Intensity 強度
- 23 ECBI –Oppositional 反抗的
- 24 ECBI –Inattentive 注意力の欠如
- 25 ECBI –Conduct 行為
- 26 Classroom Behaviour Problems -KPC
- 27 Dyadic Parent-Child Interactive Coding System-Revised -Negative Behaviour  
- 否定的な行動
- 04 Meta-analysis of follow-up data メタ・アナリシスの追跡データ
- 01 Emotional and Behavioural Outcomes 情緒・行動アウトカム

表 (追加)

01 子育て訓練プログラムの内容

研究	内 容
Gross et al, 1995	10週間にわたるグループベースの子育て訓練プログラムで、自己効力感理論に基づいて Webster-Stratton が開発。親は、統制の経験、親子モデル・ビネットの観察とディスカッション、参加者間の相互支援と激励を通じて学習する。プログラムには、a) 自分の子供との遊び方、b) 子供の学習支援、c) ほめることとほうびの有効な活用、d) 有効に制限を設定する方法、e) 悪い行為への対処が含まれた。精神病院の看護師がグループを指導。
Nicholson et al, 1998	1 - 5 歳児の親を対象に、確立された知識、および児童の発達、認知心理学、社会学習理論の文献から引き出された子育て方法に基づいて開発された、10時間のグループベースの子育て訓練プログラム。プログラムは主に4つの要素で構成され、STAR として知られる。第1に、子供の行動に伝える前に、親たちは止まって (Stop) 考える (Think) ことを奨励される。第2に、親が、子供に対する期待について質問する (Ask) ことに焦点を当てる。第3に発達を促す養育の戦略について考え、第4に規律と、子供の行動に関する抑制に取り組む (Respond)。プログラムはペアレント・エジュケーターが実施。
Nicholson et al, 2001	STAR 子育て訓練プログラム (Nicholson et al, 1998 の中で説明) を活用した心理教育プログラム。トレーニングは、STAR プログラムの研修を受けたファシリテーターによって実施。
Sutton, 1992	8週間にわたる、社会学習理論の原則に基づいたグループベースの子育て訓練プログラム。著者が同プログラムを開発し、子供に対する親の管理スキルの学習に焦点が置かれた。子供が親の指示を1分以内に受け入れるように指導することを目的とした。著者がトレーニングを行った。
Gross et al, 2001	8-12人の親グループを対象に、12週間にわたり2時間のセッションを行うグループベースの子育て訓練プログラム (The Incredible Years BASIC Programme)。テーマには、児童向け遊戯、幼児の学習支援、ほめ言葉とほうびの活用、限界設定の効果、粗悪な行動への対応と問題解決などが含まれた。家庭での課題も活用された。コースでは、幼児向けのビデオが活用された。

## 付記

公表されていない CRG ノート

公表されているノート

改定箇所  
特に無し。

## コ レビューワの連絡先

Ms Jacqueline Parsons  
Department of Obstetrics and Gynaecology  
University of Adelaide  
Women's and Children's Hospital  
King William Road  
North Adelaide  
South Australia AUSTRALIA  
5006  
Telephone 1: +61 8 8161 7612  
E-mail: [jacqueline.parsons@adelaide.edu.au](mailto:jacqueline.parsons@adelaide.edu.au)  
その他連絡人： Dr Jane Barlow